

UFOと宇宙哲学の研究誌

GAPニューズレター

No. 64



〈巻頭言〉愛…1

エゴを支配する道 ジョージ・アダムスキー…2

人間とは何か フレッド・ステックリング…4

声 明 S.ホワイトティング/F.ステックリング…5

ジョージ・アダムスキー財団について スティーブ・ホワイトティング…6

〈写真〉宇宙の意識…7

心は静電気か 浜村達郎…8

ヨハネ黙示録解読試案(2) 遠藤昭則…14

予知夢と8月14日 小林正弘…17

UFOと日本人 久保田八郎…20

各地支部総会、盛況！…31

会員の声…34

〈予告〉東京月例会会場を変更／今年11月の総会について…39

日本GAP月例研究会案内…40

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。
写真共禁無断転載。



GAPとは

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群から偉大な発達をとげた人類が地球を訪問しつつある。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の起源と未来の運命の真実を知るのに有益である。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

明治の末か大正の始め頃、東京に住む一人の若い看護婦さんが貧民の救済活動を思いついた。クリスマスチャンである彼女は貯蓄をし、衣類や日用品などを購入して、これを乳母車に積み、ある下町のスラム街を訪れた。恵まれない人々にプレゼントしようというわけである。

ところが、彼女の姿を見た貧民たちは一斉に飛びかかり、醜悪な争奪戦を演じたあげく、彼女の衣服までぎ取って暴行を加えた。

かくて、うら若き女性の崇高な愛の精神と清純な肉体は虫ケラどもの蹂躪するところとなり、無残な結果に終わった。これは実際にあった出来事である。

これには種々の原因がある。彼女が貧民の——というよりも人間の——実態について無知であった、当時の東京の自治力が未発達であった、警察力が弱体であった、etc.

ここで重要な問題が起こってくる。いかに高次な愛や慈悲の精神に燃えていても、知恵がともなわなければ、それが生きないということだ。現代の世相を見ても、精神的にはあの貧民たちを一步も出ない人間が充滿し、権謀術数が渦巻き、到る所に陥穽やワナが仕掛けられていて油断をすればいつ墜落とされるかわからないような状態の中を、人は戦々恐々として生きている。うかつに他人を信用してかかると、逆に人の好きが利用されてひどい目にあうこともあるのだ。

ところで、この頃、新聞によく日本の防衛問題に関する論争が出る。大別すると、一つは、軍備を持たぬ無防備の国に

攻めて来る外敵はないはずだから防衛力を持つ必要はないというもので、もう一つは、ナチスドイツの侵略の例をあげて、歴史を直視すれば防衛力は必要だという。その中には中国古代の兵法書を持ち出し、手をこまねいて外敵の侵攻を甘受しながら同胞の婦女子が陵辱されるのを傍観するのが本当の愛ではないという一節を引用したのもあった。

アダムスキーの体験記によると、進化した惑星の人々は、宇宙空間で外敵に遭った場合、相手を殺すよりも自分たちの死を選ぶというので、これにいたく感動した人は、完全な無抵抗主義を我々も

愛



実践すべきだと思いがちである。

しかし、ここには見落としがあるようだ。我々の想像を絶した進化をとげていくスペース・ブラザーズは死という現象に恐怖心を持たぬし、生命の連続を知っている彼らは、死後ただちに良き場所に生まれ変わることも心得ている。このような人々と地球人とを同等のレベルにおくわけにはゆかない。彼らが自決する際は、おそらく瞬時にして肉体が元素に還元するような方法により、苦痛のない死の手段を講ずるのであろう。こうした人々の生き方は我々にとって理想ではあつ

ても、地球上の現実には必ずしもあてはまらない。弱肉強食の世界に生きる人間が無防備・無抵抗主義に徹したところ、所詮、悲惨な結果を招き、相手をのさばらせて、この世界をより以上に地獄化するだけだ。だからこそスペース・ブラザーズも地球上に潜入してひそかに活動を行なう場合、正体を隠しているのだ。これも彼らの防衛手段なのだ。

人間は本来生活をエンジョイする特権を創造主から賦与されているのであって、低次元人間の暴力に屈服する必要はないし、みずからの生命の自由な表現を他からおびやかされるいわれもない。にもかかわらず、この世界には狂気と悲痛が多すぎて、肉体の魂の伸びやかな発達を願いながら平安な人生を送るには不適当な地と思われるが、一方、我々がこのような惑星に生まれ来たった理由を考えると、本来美しかるべきこの天体を嫌悪し、逃げ腰になるのも間違いであらう。

要はア氏の体験記や哲学を究極の理想としながらも、まず両足を大地にしっかりとつけ、カッと眼を開いて周囲の現実を直視し、警戒すべきものは警戒し、防衛すべきものは防衛して、自己の土台を確立した上で、宇宙哲学の実践に精出すべきだろう。漠然とした観念論や感傷的な平和主義は中途半端な結果に終わるだけである。

本号別掲記事でア氏は勇氣と愛の徳を説いている。もちろん、この二者の背後には相応な知恵が存在する必要がある。信じようとしないうちにむかつてア氏の体験や哲学を説いても、逆に嫌がられ軽蔑

されるかもしれない。伝えるべき相手を感じずするための直感力と聰明さを必要とする。これが知恵である。

「真の愛」の定義はむづかしいが、しいて言えば、それは自他共に救われる手段を講ずることを意味するものである。優越感や安っぽい犠牲感の上になつて一方的に他に対する救済を行なえば、トラブルが発生するだけだろう。

というわけで、我々はロマンチックな理想論から脱却する必要がある。もちろんア氏もそういうことを鼓吹したわけではなく、それどころか宇宙空間の驚異的事実を伝えて、生命の発達に関して無限の可能性を知らしめ、その方法を伝授した。そして観念やイデオロギーの遊戯でなしに、実際のなすばらしい自己開発法を残した。これによれば真の愛の理解が可能になるはずである。

究極において人間に最も必要なものは愛であらう。そして真の愛に目覚めた宇宙的な理想社会はいつか到来するだろうが、その前に人為的な大変動が発生して地球上の様相は激変するかもしれない。それにより邪悪なものすべてが一掃されて、スペース・ブラザーズの指導下に少数者のみによる黄金時代が来世紀に開花するとも考えられるが、そこまで生き伸びられないにしても、良き惑星に生まれ変わるだけの準備をしておく必要はありそうだ。

それには、くだらぬデマや中傷などを全く無視して黙々と宇宙哲学を実践するに限る。黙って愛を実行する人が結局強いのではないだろうか。

エゴを支配する道

ジョージ・アダムスキー

この記事は未公開稿であり、ピスタのGAP本部が最も重視している論文のひとつである。(編者)



エゴを支配する道を進むのは容易ではありません。「私の意志ではなく、あなたの(創造主の)意志がなされるのです」と喜んで言えるようになるまでには、人間はたびたび個人的苦痛という暗黒の夜を数時間、数日または数カ月もすごしながら、肉体人間のエゴと闘わねばなりません。しかもそれまでに人間は何度叫ぶことでしょう。「ああ、父よ、この苦しみを除きたまえ」と。

エゴの生活、すなわち「私の意志」による生活をすくすくするのは容易ですが、自分自身を「創造主の意志」に任せるのはきわめて困難です。変化の過程において弱い自我が突き抜けねばならぬ闘いはときとして最大の苦痛をひき起こします。穏和や温順な状態に達するまでには長年月を要します。毎度のことながら、宇宙的な表現のための非個人的な径路になるうとする人は、自分に強さ、理解力、信念などがあるか否かを試す、胸の張り裂けるほどの辛い試練にあります。

人間は真理という鏡の中にすんで自身の姿を映して見る必要があります。ときとしてその姿があまりにいやらしいために、しりごみし、どの程度の人格かを最もよく語ってくれる最大の伝え手から顔をそむけてしまい、生命の表現の中にひそむ神性の欠乏により茫然自失の状態になります。自身の肉体の魂に直面すると、本人はのがれることのできない絶望の沼の中に投げ入れられ、悔恨と自己非難の流砂の中に引き込まれます。

一方、心が純粹で、目的が真摯な人だけは、自分の行動や想念に直面することができ、こうした啓示にしりごみしません。このようにして高地へ登った人は、信念による自分の再確立と、愛による自分の純粹化の必要を感じます。

前述の鏡の中には、進化の道でつぐなわねばならぬ天罰、すなわち誤った行為の反応という姿がしばしば現れます。ときとして他人のとるに足りぬ弱さの上に自分がいると考える人は、この啓示

の鏡の中に自分の本当の姿が映し出されます。それはエゴの欲望のもとでもがいている肉体人間としての自分、意志の力によって「結果」を造り上げ、他人の眼に自分が偉大に見えるような知恵を求め、同胞の上位につこうとする力を求める自分の姿です。自身の内部に常に見いだしている些細な焦りの気持は、肉体人間のプライドと野心の結果であることが本人にわかるでしょう。こうした事のすべては、エゴを支配する道を歩み始めた人に与えられます。これらを謙虚な心で認めねばなりません。

人間が真理の鏡をのぞき込み、自分の個人のエゴの行為を見つめて、しかもその恐怖に打ち負かされなければ、本人は自分の行為のすべてが正当に評価される場所へ前進するでしょうし、ここで自分の正当な分け前にしたがって、過去の行為を清算するエッセンスの満ちた浄めの杯が与えられます。人によってはその杯は大変苦いでしょうし、あえてそれを飲もうとせずに捨ててしまう人も多いでしょう。こうした人に対しては鉄のドアに通じる小道が開けており、そこから更に世俗的な物に満ちた薄暗い部屋があって、その中で本人はまだ学ばなかった物事をふたたび体験するかもしれません。

一方、真理の鏡の中に自己の姿を見たあと、自分たちがずっと以前にエッセンスを入れておいた杯を手にするために、不屈の勇氣と愛の心と不滅の信念とをもって前進する人もあります。この人たちにとっては別なドア、すなわち純金の美しい門が現れるのです。この戸口の前でその人たちは、彼方の美しき物の「意識による知識」の閃光を浴びるために立ち止まることを許されます。

しかしある人にとっては、自分が飲んだ苦い杯が自分の肉体の魂を変質させて、謀反、怒り、憎悪、自己憐憫、不正感、その他無数の破壊要素の煙を立ちのぼらせるでしょう。もし知覚的な肉体



の心が弱ければ、右のすべての奴隷になるでしょう。もし本人の内部に激しい混乱も生じるでしょう。こうした場合、本人は体験という部屋の中へ導き入れられて、そこでふたたび未来の試練のための力をつけるように努力するでしょう。

黄金の戸口の前で立ちどまる少数の人は、自己の純化によって、杯の中味を超越し、自分の唇に苦かった物を甘美にし、内部の自我に対してエッセンスを活気づけます。他人にとつて毒杯であったかもしれない一杯は、こうした人にとつては新生の靈薬となります。しかもこのような状態に達したならば更に大きな試練があるのです。本人は世俗の人々の肉体の苦しみ、利己主義、憎悪、貪欲などを見るでしょうが、しかし創造主と同じほどに真実な、自由な、純粹な心をもつて、すぐに「宇宙の神聖さ」の上に自分の姿をとどめます。

このような人が容器(自身)をきれいにし、エゴのない状態に保ち、意識の行為において心底より誠実な声で「私の意志ではなく、創造主の意志がなされるのである」と告白できるならば、そのときドアーは内部に少し開かれ、道を進む人に先が輝くでしょう。求道者の神殿(肉体)をつらぬく光はますます強くなり、いまや試練は更に大となります。なぜなら、この増大する力とともに、より大きな意志、知識、力がわき起こるからです。これはたしかに最高の試練です。なぜなら、ほんの少しでもエゴの欲望があり、エゴの考えがあるなら、ドアーは広く開かれず、探求者はしきいの上にとどまらねばならないからです。そして本人は肉体人間のプライドという苦しみを通じて、ふたたび謙虚さを知り、その光を非個人的に用いることを学ばねばなりません。

ときおり、充分に理解できる状態にまで昇華する人がいます。このような人は多くの生まれ変わりを通じて、倦むことのない行為により、エゴの欲望という迷路を骨折りながら前進して、肉体の

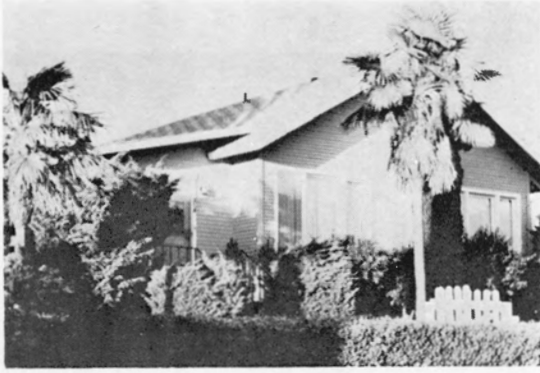
魂を支配できるようになったのです。

これまで私の言葉に耳を傾けてきたあなたがたの多くは、「意識による啓示」という鏡の中に自分自身をよく知覚する特性を与えられてきました。たぶんあなたがたは自分の弱さに失望落胆したかもしれないませんが、ダウンしてはいけません！光に向かうあなたがたの進歩は遅いのです。

あなたがたは、「自分の未来の成長」という花が、本当の、しっかりとした茎の上に支えられることが可能になるように、いま自分をがっちり根づかせているということを思い起こしなさい。

あなたがたは大地の暗黒の中に横たわっている小さな種子のようなものです。満開の花になるのに、焦ってはなりません。「自己の意識」という天空の中に高く輝く栄光の炎にむかって、あまりに急ぎすぎないようにし、コンスタントな前進を続けながら成長してください。まず自分を支える強力な根を作るように努力しなさい。信念、忍耐、寛容、愛、同情など、これらはあなたがたの生命を後になつて支えてくれる根なのです。

肉体人間の利己的な想念をひとつずつあなたの意識から消し去らねばなりません。しかしそうするためには、ひどい苦痛が生じます。自分でそのようにしているのです。けれども一方では、責め苦にさいなまれるエゴが火花となって飛び散ることにより、あなたがたの心は自由と再生の新しい誕生に加わることになります。エゴを支配する道を行くのは容易ではないと私は言いましたが、しかしこれはたとえようもなく美しいものなのです。人間の内部に苦痛が発生すれば、それは新生という局面をも生じさせます。したがって、コンスタントな活動を行なつて前進しなさい。そしてあなたがたが「宇宙の理解」という黄金の門を通らなければ、勇気と、そして特に「愛」を持たねばならぬことを覚えておきなさい。



ジョン・アグリスキー財団
(米GAP本部)からのレポート
「ティーチングス」etc.

＜同財団発行機関誌「コズミック・プレティン」3月号より＞

人間とは何か

フレッド・ステックリング

表題のような疑問を起こさない人間はこの地球上にただの一人もいません。人間とは何か？ 人類はどこで創造されたのか？ だが人間を作ったのか？ 人間の生の目的は何か？ そして永遠の生命とは何を意味するのか？

こうした疑問について長いあいだ私に解答が与えられてきましたので、それを述べてみることにしましょう。

人間とは何かという質問に答えるために、二つの基本的な説明——すなわち一つは哲学的で、他の一つは科学的な説明を試みたいと思います。

哲学的な角度からみますと、人間は私たちが神と名付けてきた「あらゆる生命の創造主」の創造になるものです。人間は「因」の似姿に作られています。

人間の肉体と感覚器官の心は、「宇宙の英知」が現れたり機能を果たしたりする径路または大通りとして作られたものです。人間は「創造主」の創造物でありますから、創造の源泉と同じ潜在能力を与えられていることは明白です。

人間は同胞だけは別として、あらゆる生きものに対する支配権を与えられました。たしかに大抵の人は、こうした知恵の言葉の中に、人間の行動のあらゆる基本的な原理はオープンマインドをもって求める人に説き示されることがわかりま

す。それは人間が「父」に似た「子」として、万物を受け継ぐ権利を行使する生得権を持つことを意味します。しかし人間は大抵の場合、息子であることが実際には何を意味するかを忘れてきたようです。

元素の支配者として、人間は自分の生活を豊かにする無限の能力を持っています。人間はただ絶対的な命令を与えればよいのであって、そうすれば元素は服従します。たしかに、ほとんどの人間はこうした力を所有していることに気づいていませんが、こんな事を行なうために必要なのはカラン種ほどの信念だと、イエスは語っています。そうすれば山も動かせるというわけです。こうした法則に絶えず気づきながら生きることは、人間を大きく向上させますが、同時に人間に制限を加えます。

なぜでしょう？ 簡単に言えば、人間は同胞や兄弟に対する支配権を持つことを禁じられているからです。この意味するところは、あらゆる人間は「創造パワー」の目の中においては等しいものであり、他人を所有したり、軽蔑したり、無視したり、または想念か肉体のいづれかの力を用いて、他人を傷つけたりする権利を持たないということです。

科学者に言わせれば、こうした事を簡

単な説明で片付けてしまい、人間とは肉や骨から成るものにすぎず、その七十二パーセントは液体だと言うでしょう。たしかに我々は化学的宇宙の中に生きており、あらゆる行為は化学的構成から成るのですが、ここでちょっと言わせてもらいます。万物を作り上げている物質を創造したのはだれでしょうか？ いかなる種類の英知が「宇宙のチリ」を物質に変えて、生命体や、惑星や太陽のごとき天体を作り出したのでしょうか？ 科学者は引力と斥力だとか磁気だと言うでしょうが、哲学的傾向の人は「愛」がその力であり、宇宙の創造力なのだと言うかも知れません。このいずれも正しいのです。この両方の法則はまさしく同じものなのです。永遠の宇宙の内部にある万物は、宇宙のチリから作られており、人間は文字どおり「宇宙の御子」と呼ばれてよいのです。

元素は宇宙空間内では自由であって、「生命」が宿れるように準備のできたボディを作るには、適当な結合と環境とを必要とするだけです。人間は自分自身を、心のかわりに魂によって導かれるように仕向けるならば、元素類の完全な支配者になります。健康、若さ、長寿、知覚力などは、そのような指令を与える人に得られるのです。一方で肉体の元素が服従するからです。

人間は、たとえば植物を育てる特技を発揮して、周囲にある植物のような生きものや意志を通じ合うことができます。それならば、これと同じ法則は自分の肉体にも応用できるはずで、イエスは万

人の中に内在するこの能力をよく理解して、次のように確証しました。「我々の肉体は生ける神の神殿である」。イエスの教えの中で最も重要なのは、右の言葉で、「私と父とは一体である」という点で最も深い影響を与える言葉です。

たしかに人間の肉体は「宇宙の英知」によって作られた物のなかでは最も素晴らしい機械です。約六兆の細胞が普通の人体を構成しています。生命の奇跡はただ一個の細胞すなわち一個の受精卵で始まり、この細胞が六万個の電子コネクタを持つ数十億の細胞に分裂します。

この生命の奇跡、再生、消化、維持などを、我々はただ「自然の行為」と呼んで片付けていたにすぎませんが、人間にとつては実に興味深いものです。我々の外部の宇宙は、我々の内部にも宇宙を作り上げているのです。

子供から一般大衆に対し、学校教育によって次の事柄を教えるように努力すればよいと思います。人体のすばらしさ、心とその無数の働き、特に、人体内に生きていて、意識的に、心を活性化させている「真の人間」の認識などです。我々が若い人を教育すれば、生命の奇跡と法則の無知のために互いに引き起こしている多くの残酷さをそのうち排除できるように。

そうすると、人間の生命の目的は何でしょう？ 今までに述べたところから論理的な結論を引き出しますと、人間は自分を作り上げている「英知」を表現するために作られたということになります。人間とは肉体そのものではなくて、肉

体を生かしている「英知」であるという事実に基づいたとたん、自分自身の「宇宙」の住人になるのです。我々の住む惑星を含む万物の中に働いているこの法則を知ることができれば、人間が長く住んでいける牢獄は消滅します。

かわつてこのことは「永遠の生命」の原理を説明します。「宇宙の英知」すなわち神は、人間を永遠の存在物たらしめる永遠の力です。あらゆる現象または結果として現れた創造物は創造、働き、最後の崩壊の過程を経ることは事実ですが、結果すなわち肉体の内部に生きていく「英知」としての人間は、人間を作り上げている英知と同じほどに永遠なのです。

あらゆる生命体は神が自身の英知を表現するために作られました。物体は変換し、再度磁化されるように物質の元の状態に解放し返されますが、生命体の英知または生命力は新しい容器を見つけて、それを占めてまた表現します。創造と再生の原理は、新約の中でイエスの次の言葉によって説明されています。

「天と地とは過ぎ行くが、私の言葉は過ぎ行かない。なぜなら新しい天と新しい地がかわつて現れるからだ」

万物を互いにつないでいるのは磁気で、生命体内部の調和と摩擦のなさが、その生命体を高次な状態に達せしめます。一方、摩擦は生命体の分子の磁気を除き、早老と早まった崩壊をひき起こします。しかしその生命体の生命力は「生命」それ自体であり、そして「生命」は不滅です。さもなければ、それは最初に「生命」たり得ないでしょう。

声 明

先号の「コズミック・プレティン」に新しい理事が発表されて以来（編者注：米GAP本部正式にはジョージ・アダムスキー財団/発行の季刊機関誌一九七七年十二月号にホワイトイングとステックリングの二氏が正式に同財団の理事に就任したというアリス・ウェルズ理事長の発表を意味する）米国中や世界中から多数の支持の手紙を受け取りました。激励の言葉を寄せていただいた方々に感謝いたします。多くの新しい人々が最近の映画やテレビの特別番組のブームによってひき起こされる新たな（宇宙問題に対する）関心の波に興味をもつようになつたことは良いことです。その新しい人々、掌中に未来を握っている多くのヤング層は、現在我々が個人のエゴでもって互いに機知と攻撃のゲームで挑戦し合う実験を続けているあいだに作り上げていく諸状態や生活の状態とたたかう必要がありません。その結果は競争者の心理を一步も出るものではありません。これは我々が放置しようとしていないことでしょうか。自分自身や自分の道を促進したいだけのことです。真理について語っている人が多くいます。しかしそれを聞かされる人はどうでしょうか？ それが他人の個人的な自己の向上にどれだけの価値があるのでしょうか？ 価値はありません。そんな真理の言葉で他人が自分の未来を築き上

ステイブ・ホワイトイング
フレッド・ステックリング

上げるための多くの価値を見出すことはできません。

ジョージ・アダムスキー財団の私たちは、個人の性格を満足させるための変化のある試みをしないで、スペース・プログラズやジョージ・アダムスキーから伝えられた真理を提供するために、新たな集約的努力をしています。また私たちは、よけいな説明や解釈を加えなくても真価によって充分にもちこたえ得るアダムスキー氏の業績の、誤った促進活動を摘発して排除するように努力します。なぜなら、こうして（誤った促進活動によって）常に真理というものが最後には地上の人類によって見失われるからです。歴史の各頁を見わたせば、誤った解釈や促進によって基本的な生命の法則が失われてしまい、雲に包まれたエッセンスのみが残る様子を何度も見ることができません。いま私たちはジョージ・アダムスキー財団の簡単な定義、すなわち「それは何か？、そして、重要なものは『それは何でないか』を述べることでできてうれしく思います。すでに各種の宗教が存在しますが、科学的で真実なものであるこの（スペース）プログラムから新しい宗教が作られることを容認しません。このプログラムは社会のあらゆる階層の万人のためのものであり、選ばれた少数者のためのものではないのです。

ジョージ・アダムスキー氏 について

スティープ・ホワイトティング

一九六五年四月二十四日、三十年以上にわたってアダムスキー氏に親しく仕えたアリス・K・ウェルズは、心臓病で死去したジョージ・アダムスキーの遺体について最後の処理をするために、カリフォルニア州ビスタのアダムスキーの家からワシントン市へ飛びました。

その後、彼の仕事を遂行するために諸計画がたてられて、ジョージ・アダムスキー財団が設立されました。

現在、その財団はアダムスキー氏もたらした理想と哲学の促進を依然として続けています。当然のことながら彼の死後は彼の生活と体験に関してあらゆる事を主張しながら多くの促進者が表面に現れてきました。もちろん、その人たちのいずれもが彼の亡きあとと自分こそその仕事を遂行する人間だと主張しました。しかし公式に任命された人が一人だけいました。それはアリス・ウェルズ夫人です（编者注：アリスは若い頃離婚して以来独身で過ごしたが、公的にはMrs.を用いている）。なぜならアダムスキー氏は自分の資料などの法的な所有権を含む仕事のすべてを彼女に譲渡したからです。またアダムスキー氏はステックリング氏に対してプログラムのために彼のできる事をやるようにと語りました。そしてア



●スティープ・ホワイトティング氏

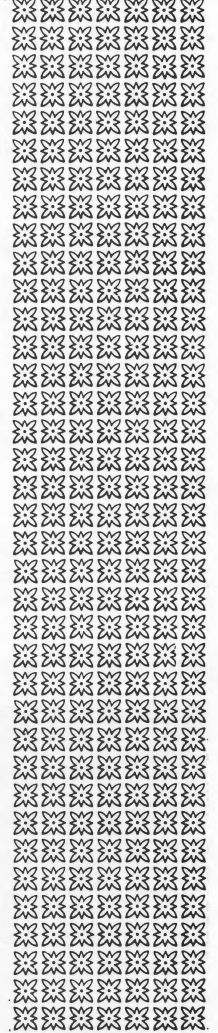
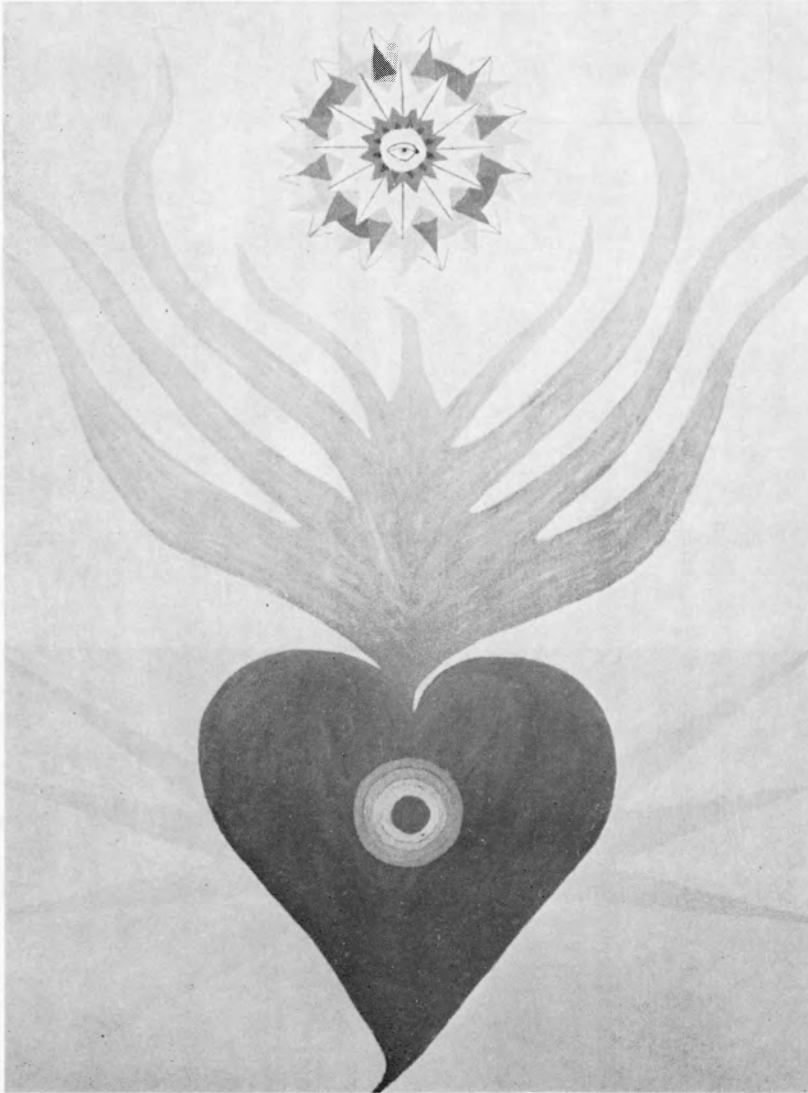
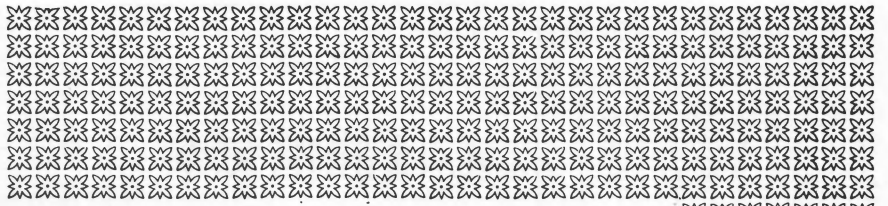
ダムスキー氏は自身がかねてコンタクトしていた別な惑星から来た人々の多くの人にステックリング氏を紹介しました。こうして二人のあいだで、アダムスキー氏が生涯を通じて促進してきた真理を、人々にもたらそうと努力したのです。その（スペース）プログラムは常識と真実にもとづいたものです。宇宙の人々が促進してきた生き方は、実際のなものの一つです。それは実行し得るプログラムですから、苦難の世界に心の平安を

もたらすでしょう。それは非宗教的、非党派的な哲学で、その教えは宇宙的です。一グルーブを他のグルーブの上位においたりはしません。しばしば次のように言われてきました。「宇宙的とは何か？ 絶対的とは何か？」と。信念や意見の何たるかにかかわらず、人間の行為によって変え得ないものが宇宙的です。他の惑星の人々からたらされた哲学は、過去に多くの指導者や哲学者がもたらした哲学と大差はありません。なぜなら知識というものは宇宙的（普遍的）なもので、宇宙の英知と調和した人々にはいつも知られてきたからです。別な惑星ですごされている生活からジョージ・アダムスキーによってもたらされたプログラムは簡潔なものの一つで、歴史を通じて伝えられたのと同じ原理が存在しますが、過去に混乱をひき起こした多くの個人的な執着は関係ありませんでした。だからこそジョージ・アダムスキー財団は、他の惑星の人々から直接に伝えられた知識を、自分のエゴのためにその知識を利用して名誉と利益への道を見い出すいわゆる日和見主義者による歪曲の運命をたどらないようにしようとしたのです。

生命の哲学は精神を高揚させるもの一つであり、墮落させるような思想ではありません。他の惑星では各人を一個人にすることが目標であり、他人の意見や生命の概念に対する奴隷にするのではありません。我々各人も同じ神性の火花を含んでおり、そのゆえに、近隣の惑星人と同じ能力を持っているのです。謎を促進し、恐怖を作り出すことによって、人間を無知の中に保とうとする人は、人間の善のために役立っていません。恐怖はすでに大抵の人々の道標となつていますが、これは知識と希望とおきかえる必要があります。そうすれば他人に対する劣等感を起こすことなしに前進して、人生を体験できます。他人の生活のための規則をきめる権利を持つ人はいません。生命が、見ようとする人のためにそれ自体の規則を設定するのです。

重要なのは宇宙船(UFO)の飛来ではなく、宇宙船が来ていると人が信じているとしても、それも重要ではありません。我々の生活の維持と、ホームと呼んでいる惑星が危険になっているという事実が存在しています。我々が何を信じようと、どこに住もうと、それは問題ではありません。もし社会が、それが目指している方向にむかって目覚めなければいかなる信念のためにも落ち着き場所がなく、それを信じようとして残る人もいなくなりません。

以上は宇宙の人々からジョージ・アダムスキーを通じてもたらされた生命の哲学で、これがジョージ・アダムスキー財団の方針と考え方です。そのために我々が立ち上がったのです。無限なる英知の援助により、この真理の大義のために活動することを決意した人々のすべては、以上のことを忘れないようにして下さい。



宇宙の意識

スティーブ・ホワイティング画

●昨年11月にアメリカよりフレッド・ステックリング氏を招待した折、スティーブ・ホワイティング氏が描いた油絵をはずかって来たといって旅客機の中からかつぎ出したのがこの作品である。編者久保田に贈られたもので、下方のハート型の中心の円が宇宙の意識（創造主）をあらわすという。大きさは45×60 cm。額ぶちに入っていた。

序

近年、科学技術の発達は目を見張る程であります。特にエレクトロニクスの進歩によって、私たちは、以前には到底知り得なかつた多くの事実を、それこそ毎日のように手に入れていくと思えます。科学が人類を迷信の暗闇から解放した過去の事実を考えます時、この毎日のようにもたらされる新事実、新発見が、どれ

<科学レポ>

心は静電気か

浜村達郎

程私たちにとって有益であるか、という事に疑問の余地はないと思えます。科学がその道を踏みはずさず進歩してゆくならば、遠からず私たちは、この全宇宙を生かし英知を与える『宇宙の意識』の存在を認めざるを得ない、という段階にまで達すると思えます。したがって、科学は地球上の人類を真に救う事のできるものであると断言できると思えます。

以前から、科学には興味を抱き、いろ

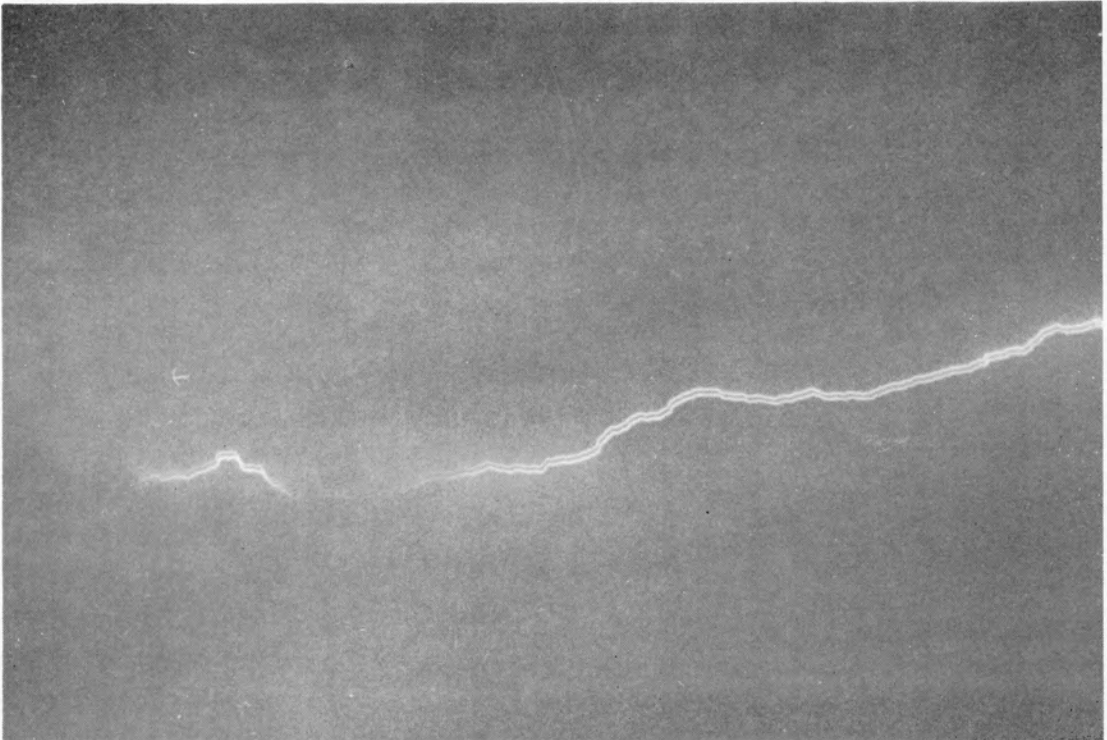
いと入門書などをかじっておりましたが、このレポートでは、その中から得られました知識と、アダムスキー師の哲学を学んで考えるようになりました私個人の考えとを記してみたいと思えます。

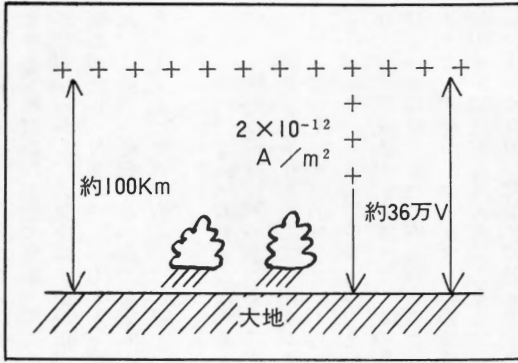
一、電荷と電気力

高校までの物理あるいは地学の授業では、『空中電場』に関して教わっていないのではないかと思います。おそらく、物理、地学で学ぶべき主要テーマとあまり関係がなく、またこの現象に対する解釈が一つに定まっていな事がある原因であるかもしれません。しかし、『雷』をテーマとした気象関係の書物を読みますと、必ずといってよいほどこの問題に触れておりますので、この方面の専門家にとってはよく知られた事であると思われま

す。ところで、『空中電場』と言いますのは、私たちが取り巻いている大気に電圧がかかっている、という事です。つまりこの大気中に地表に対して垂直方向に電位差が存在するという事なのですが、具体的な数字を申し上げますと、おおよそ一メートルにつき百ボルトであるそうです。地面を〇ボルトとして、地面との間の電圧で考えますと、千メートルの高さで、約十万ボルト、百キロメートルの高さでは、その位の高度になりますと、一メートル当りの電位差が小さくなり、約三十六万ボルトにもなるそうです。電気的な符号は、地球が負(－)に、そして上空へ行く程正(＋)になるとの事

●カミナリ現象 (筆者撮影)





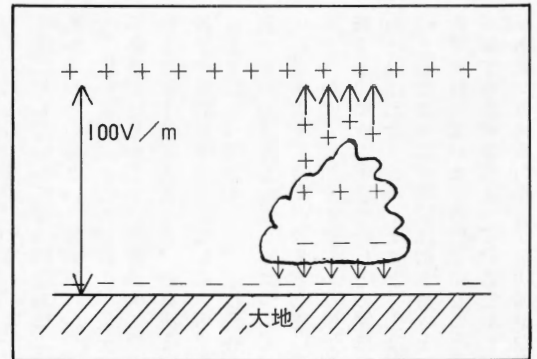
第1図 空中電場の概略

た。電池一個の起電力が一・五ボルト、電灯線電圧が百ボルトである事から考えて驚くほど高電圧のように思えますが、一般に、静電気の電圧は非常に高く、中学・高校で理科教材として使われているファンデグラーフ静電高圧発生器では、二十万ボルトは出せると思います。ところで、それではこのような電位差がなぜ生じているのか、という事が問題となってくるわけですが、その前にもう少しこの「空中電場」について、説明を続けてみます。

第1図に書いてありますが、現在のこの方面の専門家の間では、特殊な場合を除いて、上空に行けば行くほど正(+)になり、つまり電位が高くなり、地面はその反対に負(-)に帯電していると考

られております。したがって、上空の正電荷と地面の負電荷とは引き合っていると考えるわけですが、空気中には正、負に帯電したイオンが存在し、これらは上空の正電荷、地面の負電荷に反発あるいは吸引されて移動を起します。イオンの移動は電流が生じる事と同じです。その数値は、キログラムメートル四方の面積に二アンペア程度流れているとの事です。本来ですと、このように電流が生じておきますと、早晩中和してしまい、空中電場もなくなってしまうはずですが、一説によりますと、数分間で中和してしまうところでも中和せず、空中電場が維持されているのです。それでは、どうしてこの空中電場が存在するのか、という問題に移るわけです。二冊ほど入門書を読んでみましたが、その限りでは、次のように説明してあります。つまり、雷雲がこの電気を供給している、という事です。一般に雷電は、上部が正、下部が負に帯電しており、いろいろな形態がありますが、落雷によって大地に負電荷が供給され、正電荷は上空を伝わって補給されていると考えられているようです。雷雲が巨大な電池となって大気中の電場を保っていると言ってもよいかもしれません。

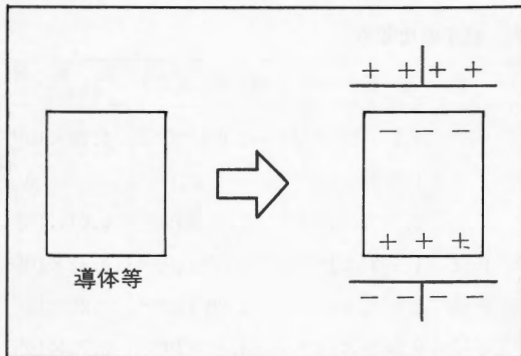
さて、これまで長々と『空中電場』に関してお話してきたわけですが、これは、この問題に関して書いて書かれてありました事を私の意見を加えずに書いてきたものであります。ところが、どうもこの考え方には私は疑問を感じるのです。その疑問点とは次の二つです。



第2図 空中電場と雷雲の電気分布

(一) 空中電場は上空が正、地面が負であるから、静電誘導現象を無視できないと思われるので、雷雲の上部が負、下部が正となる、と考える方が自然であるように思われるが、実際には、雷雲の電気分布は正反対である。どうもその点が理解しがたい。(第3図)

(二) 空中電場を保持する機構に対する説明に関して。雷雲の内部では、上部の正電荷と下部の負電荷との間には当然電気的引力が作用しているはずであり、この引力に逆らいかつ、空中電場から受ける力にも逆らって、正の電荷が上空に補給されたり、地面に負の電気が供給されるというのは、自然の傾向に反しているように思われる。(第2図)



第3図 静電誘導

次のように考えることができると思いますが、つまり、空中電場の向きが、逆なのではないか、という事です。地面側が正ではなく、上空へ行く程正になるわけですが、そうではなく、この大気自体が、電場の作用によって、下が負、上空が正に分極していると考えられるわけです。そうすれば、雷雲が同じ分極を起こしていても不思議はないわけです。説明の仕方を変えてみますと、上空が正、地面が負に帯電しているというのは結果と考えられます。それに対して、このような帯電を促す力が作用すると考えれば、その力は原因と言えます。電場と言いますと、従来

陽性の電氣力と言った方がよいかもかもしれません。地面から上空に向かってこの力が作用するから、大氣中に上空が正、地面が負という分極が生じ、しかも、同時に、この力が存在するから、雷雲も下が負、上が正に帯電するのだ、と言えないでしょうか。

ところで、これと似たような現象として、「細胞の膜電位」があります。これは、細胞が膜を境界として、内側が外側に対してマイナス六〇からマイナス九〇ミリボルトほど負の電位をもつ、という事です。解説書を読みますと、この膜電位というのは、細胞の内と外とのカリウムイオン、ナトリウムイオンの濃度差に起因する二次的な電位差であるとなっています。つまり、細胞内に外よりも多量の負電荷が存在して、それで電位差ができていてのではない、という事のようにです。また、この濃度差は、細胞膜がカリウムイオンは良く通すが、ナトリウムイオンは通しにくい、という性質によって生じているとの事でした。ところが、神経細胞においてはその辺の事情がかなり他の細胞と比べて特異で、電氣的なパルスが伝わってくると、一時的にこの電位差が逆転し、さらに短時間のうちにものと電位差に回復します。説明によりますと、これは細胞膜がナトリウムイオン、カリウムイオンをもとの状態に戻すように輸送を行なうためである、となっていました。しかし、このような濃度差、電氣的勾配を維持する役割を、細胞膜自体にのみ負わせるのはどうも不自然ではないかと感じます。もっと自然な形で考え

られないかと思うのですが。また、一方で、細胞というのは、その表面が負に帯電しておりますが、私の勉強不足も手伝って、前述の膜電位とこの表面の負電荷が別個に説明されていて、両者の間の相互関係にはどうも触れられていないように思われます。両者ととも電氣的なものでもありますので無関係ではないと思われまゝ。あるいはこれも、前述の空中電場の場合と同じく、次のように考えられるのではないのでしょうか。つまり、細胞膜の内側から陽性の電氣力が作用して、その結果として細胞の内部が負の電位となり、また、負に帯電した巨大分子で、細胞膜を通過できないものが、その表面に附着している、というように考えられなideいでしょうか。しろうと考えるではあります。電位差というものが生きている細胞の内と外の間維持されているという事は、やはりそこに電氣的な何らかの力の存在を考えないわけにはまいりません。以上長々と細かい話をしましりましたが、これはこれから申し上げます一種の概念に關しまして、具体的な例を提出しようと考えたためです。

二、能動性と受動性

現在考えられている原子というものの概念は、太陽系のように中心に原子核があつて、そのまわりを電子が回転している、というものは異なるようですが、いずれにしましても、この一つの単位は中心に陽性の核を持ち、そのまわりを陰性の電子が取り巻いている、という構成

には変わりはないと思います。実は、このような取り合わせが他の多くの単位に對しても適用できる概念なのではないかと考えるのです。そこでもう少しこの単位の持つている性格について考察してみようと思ひます。

原子を構成している電子、陽子、中性子について、その質量や電荷を調べてみますと、第1表のようであります。表中で、比電荷と言ひますのは、電荷の數値を質量で割つたものでありまして、電氣的な外部からの力による動き易さの指標と考えてよいと思ひます。つまり、この數値が大きい程、電氣的な外力によって動かされ易いという事です。これを見ますと電子は陽子の二千倍程になります。また、原子核についてその比電荷を求めますと、およそ電子は原子核の四千から五千倍にもなります。つまり、電子が原子核に對していかに電氣的な力によって動かされ易いかという事がおわかり頂けると思ひます。ところで近年、量子力学が発展したおかげで、物質が単に粒子として存在するに留まらず、物質波という波動の性質を兼ね具えていると考えられるようになってきました。その波動の性質や他の物質波との係わりについて、現代の量子力学が考察の対象として、いか

かどうかはよく知りませんが、原子核の有する波動性が電子のそれとの間に影響力を及ぼし合うと考えますと、先ほど述べましたように、電子は動き易さという性格を持っていますので、中心の原子核が有する波動性によつて、あたかも電子があやつられるかのような状況を想定す

第1表 粒子の比電荷

粒子名	質量 (kg)	電荷 (c)	比電荷 (kg/c)
電子	9.1×10^{-31}	-1.60×10^{-19}	1.76×10^{11}
中性子	1.6738×10^{-27}	0	0
陽子	1.6752×10^{-27}	$+1.60 \times 10^{-19}$	9.64×10^7
炭素原子核	1.9934×10^{-26}	$+9.60 \times 10^{-19}$	4.82×10^7
酸素原子核	2.6552×10^{-26}	$+1.28 \times 10^{-18}$	4.82×10^7
ウラン電子核	3.9506×10^{-25}	$+1.47 \times 10^{-17}$	3.72×10^7

る事ができます。したがつて、このような状況が成立するとしみますと、この両者の間には、能動性と受動性という対応關係を考へる事ができます。

また次のような性格も存在すると思ひます。中心となる存在（この場合は原子核）は大きく、それを取り巻いてはる存在は小さい、という大と小の概念です。あるいはさらに、水素原子を除きますと他のすべての原子は一つの中心に對して多數の電子を伴つています。つまり一と多數という対応する概念です。以上のようにこの単位は、一つの大きな能動性を持つた中心と、そのまわりを取り巻く複數（水素の例を除く）の小さな受動性を

持った粒子によって構成されていると
 思える事ができると思います。そして、
 このようにとらえられた概念を他の大き
 さの単位にあてはめてみようというわけ
 です。

まず、太陽系に視点を移してみようと
 思います。太陽系の構成メンバーの質量
 や大きさを表にしたのが、第2表です。
 これを見てわかります事は、太陽が極端
 に大きく(特に質量の面で)、惑星はか
 なり小さいと言える事です。前述の概念
 を適用してみますと、各惑星は太陽から

のエネルギーを受ける、という能動、受
 動の関係になっていいると思われま
 した、太陽のエネルギー源とされてい
 融合においては、多量の陽子や他の原子
 核(+)が生成されるので、しろうと考
 えで太陽風は陽性の電気を帯びたもの
 であろうと考えておりましたが、解説書
 を読んでみますと、この太陽風は電氣的に
 正と負の粒子が同数である、との事
 でした。少々中性という概念に固執して
 定しているのは、太陽から吹き付けて来

ていると言われる太陽風の粒子の数であ
 って、太陽の電氣的な力ではないように
 思われます。今のところのデータでは、
 太陽系の太陽と各惑星との電氣的な関係
 については結論が導き出せません。

次に、人間社会について、この能動性
 と受動性の概念を適用してみますと、か
 なりおもしろい事が言えるように思いま
 す。例えば、ある一人の指導者を中心と
 して、その人のまわりに多数の支持者、
 賛同者、追従者が存在する、という集団
 のパターンは、かなり一般的なのではな

いかと思えます。特に日本における集団
 の特徴として、その傾向が顕著である
 と思われま
 する集団が、日本人の集団とかなり異なる
 という事が、その道の専門家の間で議論
 されているようですが、欧米社会という
 ものも、やはり、キリスト教という一つ
 の中心と、その信奉者という構造を有し
 ている事に関しては、日本の場合と同じ
 であると考えられます。ただ、集団の一
 つの単位が大きい小さいかの違いがあ
 るくらいだと思えます。



●ファンデグラーフ発生器 (筆者所有)

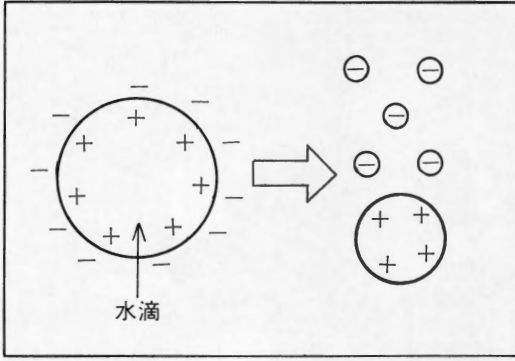
第2表 天文定数 (「天文年鑑」1977年版より)

天体名	半径(赤道) (km)	M.質量(kg)	M÷地球質量
太陽	695990	1.9926×10 ³⁰	333552
水星	2440		0.05537
金星	6017		0.81648
地球	6378	5.974 × 10 ²⁴	1.00000
火星	3395		0.10745
木星	70870		318.471
土星	60000		95.365
天王星	25900		14.544
海王星	24600		17.286
冥王星	2900		0.15

ところで、『電荷と電気力』の所で、地球のまわりの大気中の空中電場についてあれこれ細々とお話ししましたが、それは、この「中心が陽性(+)で、そのまわりを陰性(-)の存在が取り巻いている」という概念が、地球の場合にも適用できるという事を示したかったからに他ありません。また、細胞に致しまして、専門家は内側を負、外側を正、と言いますが、その状態が維持されるには、内側から陽性の電気力が働かなければならないと考え、やはり、内側が(+)、外側が(-)という概念が適用できるように思われるのです。

最後に、もう一つおもしろい例についてお話しします。

古い話ではありますが、一九八二年に、レナードという科学者が、滝の水しぶき



第4図 レナード効果

の帯電現象について報告書を出したので、それによりますと、上昇気流によって高く運ばれた細かい霧は、主に負に、水面に近い所では正に帯電したしづきになっていることがわかった、という事です。その後、実験室における研究の結果彼は、一九一五年に報告書をまとめ、次のような事を結論として出したのです。水滴の表面には外側に負の電気、内側に正の電気という電気二重層が存在し、水滴の表面が細かい水滴に分裂する時に、その微小水滴は負に帯電し、残りが正となる、というものです。これを、研究者の名を取ってレナード効果と呼ぶそうです。(第4図)

三、心について

「太陽のバイオリズム」という本を読んどおりますと、この本が実に大変な問題を私たちに提起している事がわかります。中学、高校で教わる事はないだろうと思いますが、実際問題として、私たちの生活にも非常に深く関係し、それ故に重要であると考えられる内容を有していると思われまます。この本のテーマは「太陽の活動と人間その他の生物の生命活動とが非常に密接な関係を持つ」という事です。太陽はただ光と熱とを与えているのではないという事になります。この本の一四〇ページには、太陽活動が神経系に与える影響について、一四七ページには、血液に与える影響について、一五二ページには、皮膚電位が太陽面爆発の起こる二〜四日前に反応する事等、私たち

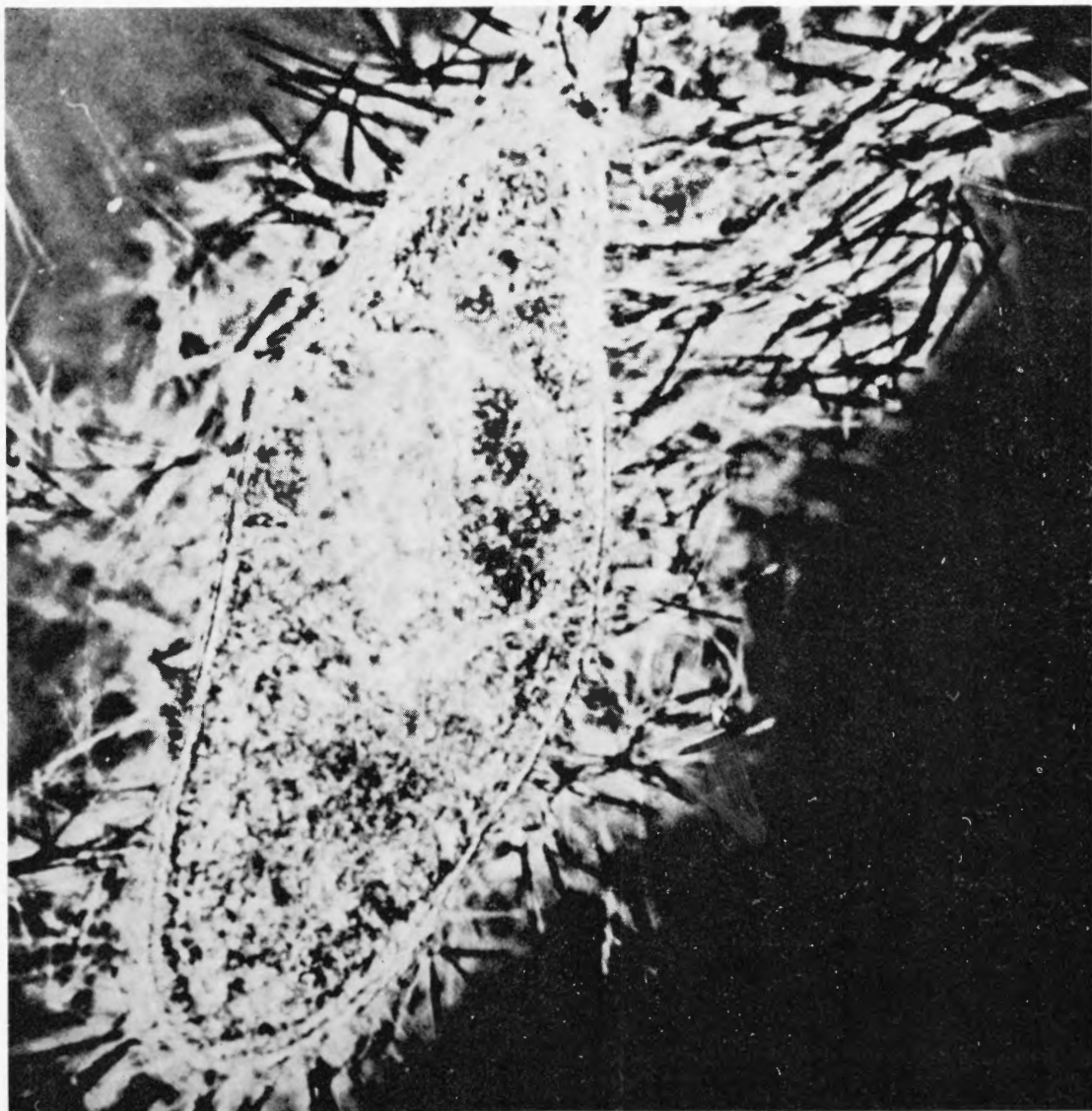
にとっては全く目新しく、かつ非常に興味深い内容が述べられております。ただこのような作用がどのようにして起こるのか、という事に関しては、電波に類するものによる作用、あるいはその他の何かであろう、というように書かれておりました。

私たちの肉体は、超精密な機能を有する極めて複雑な電氣的メカニズムといっても過言ではないと思われまますから、外界の電氣的な変化によって、この本で述べられているように影響を受けるといふ事は、当然考えられる事です。それは、このような作用が起こる時、その作用を受け止める、あるいは、その作用を媒介するのは何か、と考えまますと、私は「電子」ではないかと思ふのです。ではこの「電子」に直接影響を与えるのは何かという、と、電磁的の力、特に、陽性の電気力を挙げる事ができると思ひまます。ところで、アダムスキー師が「テレパシー」の四十六ページで次のように述べておられる事をご存知と思ひまます。

「心が何であろうとも、それはきわめて微小な荷電粒子から成っていて、性質の精妙さは別としても、物質的形態をつくるところのもっと集中化された実体のようなものであるにちがいないのです。中継するものがあるからこそエネルギーは一点から一点へ運ばれ得るのです」。現在の私たちの知識だけから申し上げましても、人間の精神作用が電氣的なものである事に疑問の余地はありません。そして、その機能が外部からの影響を受けるといふ事も事実であると思ひまます。

「太陽のバイオリズム」では、外部からの異常な影響についてだいたいわ述べておられ、正常な機能が外部からの力によって支えられている、という所まで言及はしておりませんが、私には、外部からの正常な力による生命の維持という事を考えないわけにはいきません。生かじりの知識ではありませんが、生命にとって欠く事のできない細胞内のタンパク質が、負電荷をもつ、つまり陰イオンであるという事は、この辺の事情と無関係ではないように思われまます。

さて、話を交えますが、次に生体に活力を与える陰イオンの話について言及したいと思ひまます。この研究は、戦前からすでに一部でなされていたようですが、空気の陰イオン、つまり負にイオン化した酸素分子は、生体に非常に良い影響を与え、という事が知られておりまます。各方面で応用されつつあるようです。「静電気ハンドブック」には、この負イオンが、鎮痛、催眠、鎮咳、制汗、食欲亢進、血圧降下、爽快感、疲労防止、疲労回復の作用があり、正イオンはその正反対の作用をする、と書かれてあります。また、前記の「太陽のバイオリズム」にも「生気を与えるイオン」として、負の空気イオンが、人間や動植物に非常に良い作用を及ぼす、と書かれてあります。このように、負イオンが生体に非常に良い影響を与える事がわかっておりまます。このイオン自体が肉体に良い作用を与えるのかどうか、という点が問題になると思ひまます。先程、正常な機能を支える力が存在するのではないかと、と書きま



●単細胞ゾウリムシのそばへヨードを落とすと、ただちに毛胞を槍のように突き出して警戒する。これはその神秘的な光景。やはり「意識」を持つのだろうか。(ライフ/人間と科学シリーズ『細胞と生物』より)

したが、この事と関連させますと、この負イオンが、今述べました力(おそらくは、陽性の電気力と思われるのですが)によって作用を受け、それを体内に取り入れる事によって、その負イオンが正常な機能を支える力から得たエネルギーを取得する事ができる、というように考えられないでしょうか。

参考文献

- * 空中電場関係
- (1) 「静電気の話」 P. 193~
A・D・ムーア (河出書房新社)
 - (2) 「雷」 P. 161~
中谷宇吉郎著 (岩波新書)
 - (3) 「雲と雷の科学」 P. 144~
孫野長治著 (NHKブックス)
 - (4) 「アマチュア科学者」 P. 82~
C・L・ストーン編 (白揚社)
- * 膜電位関係
- (5) (1)と同じ P. 225~
 - (6) 「細胞の社会」 P. 190~
岡田節人著 (ブルーバックス)
- * レナード効果関係
- (7) (3)と同じ P. 133~
 - (8) 「静電気ハンドブック」 P. 77~ P. 505
高分子学会編 (地人書館)
- * 負イオン関係
- (9) 「太陽のバイオリズム」 P. 133~
ジーゲリ著 (東京図書)
 - (10) (8)と同じ P. 508

録示黙ハヨ

解読試案

(2)

イ夢と英知とを筆解に功成り現れ、
録示黙を筆解に功成り現れ、
難解な黙示録を筆解に功成り現れ、
一リンギに白髪の老人が現れる。
のの中に

遠藤昭則

一八、心臓神経そう(注・胸腺)と一体である細胞へ。

『偉大な理解力と力とを持ち、地上における活動力を備えている創造主が以下のように示される。』

一九、私はあなた達のカルマと、あなた達の慈悲とその行ないと、あなた達の信念と、それを得ようとする忍耐力とを知っている(注・コントロールしている)。

また、あなた達の慈悲によって信念が増すことをも知っている(注・あなた達が慈悲を行なうことによってさらに調和するようにコントロールしている)。

二〇、しかし、あなた達に言うべきことがある。あなた達の中のある者達は、信念を慈悲から分けてしまつて、信念のみを取り扱つて生命力の誤用をしている。そしてその信念を真理として、宇宙的真理を歪曲し、創造主の分身になる仲間達を汚し、冒瀆している。

二一、そのような彼らの考えを宇宙的な

ものと置き換える機会を与えたが、あなた達もやはり、その歪曲した考えを捨てようとはしなかつた。

二二、そのために、彼らはその過失と共に、その考えを保ち続けている。慈悲から信念を分け、歪曲することを思いとどまろうとしない彼らと同じことをする者達も、過ちに悩まされるであろう。

二三、また、宇宙的真理はことごとく過ちに変えられるであろう。こうしてこれらすべての細胞は、創造主は原因の始まりまでも解っているということを、このことにより知らされるであろう。そして創造主のエネルギーは、あなた達ひとりひとりのカルマに応じて開かれるであろう。

二四、また、心臓神経そうと一体である細胞群の中で、慈悲から信念を分けておらず、また、内部の利己的の信念を理解していない者達、更生しようとする心がある者達に言う。それらの者達は、ただ警戒をしていれよ。

二五、ただ創造主と一体になるように、宇宙的になるように、理解している宇宙的な事柄を保持して、それに従つて生きなさい。

二六、悪魔細胞との戦いに打ち勝ち、利己的な信念を抑制できる者、この歩みの中で、宇宙の意識と一体化して行動をするようなカルマをもつ者達は、肉体のあるゆる部分の機能をコントロールする力を得、空間中の悪魔細胞の信念に打ち勝つことができるであろう。

二七、彼らは結果の世界に現われている宇宙の真理を探索して、利己的の信念を全

く無価値なものにしてしまふであろう。それは我々が、我々の内部にある創造主のパワーを受け、さまざまな利己的の信念に打ち勝つことができるのと同じである。

二八、そして彼らには、創造主の英知とパワーが現われるであろう。

二九、理解する者は、宇宙の意識に従いなさい』

第三章

一、咽頭神経そう(甲状腺)と一体である細胞へ。

『身体七つの神経中枢と、七つのパワーを支配する、宇宙の意識が以下のように示される。私はあなたのカルマを見ているが、あなた達は結果の世界では生きていないが、原因の世界では眠っている。意識的になつて、眠りかけている他の者達を力づけなさい。あなたの行ないは、まだ創造主から分離している。』

二、それであるから、あなた達がどのようにして宇宙的の信念を感受し、また聞いたかを思い出し、それを保つて、宇宙の真理に従つた生活をするに、眠

っている者達を目覚めさせなさい。三、もし宇宙の真理に従つた生活をしないなら、宇宙的な印象は生じているのだが、それがどんな時に来るのか解らないので、それをとり違えて利己的なものと結びつけてしまふであろう。

四、しかし、咽頭神経そうと一体である細胞群の中には、利己的の信念の影響を受けない清浄な純粋な宇宙的な細胞があ

る。彼らは宇宙の法則の中で、宇宙の意識とともに歩むであろう。彼らはそれにふさわしい者達である。

五、自分を正しい道に乗せる者達は、清浄さを取り戻し、純粋な、秩序あるものになるであろう。彼らは常に守られており、その行動は宇宙の記憶の書に書かれる。そして、宇宙の一部分になるであろう。

六、理解する者は、宇宙の意識に従いなさい』

七、松果体と一体である細胞へ。『活動の因であり、公平であり、原因と結果の世界を支配するあらゆる能力をもち、我々の歩みを正しい方向に向かわせるあらゆる能力をもつ創造主が、以下のように示される。』

八、私は、あなたのカルマを見ている。見なさい、私は、どんな悪魔細胞からの信念にも影響されないような、神経中枢の門を開いておいた。なぜなら、あなた達は、自分では何もできないということを知っているために、宇宙の意識に従つて歩み、宇宙の意識を疑うことをしなかつたからである。

九、見なさい、誤りを犯し続けている者達、すなわち(注・誤りの中にいるために、細胞の核のまわりの分子が抵抗器として作用している)ので、神経中枢からパワーが得られていないのに、得られていると言っている者達(注・自分達は特別に選ばれたのであると思つている者達)は、そのように思ひこむことにより、理解するようになるであろう。そして、

そのように宇宙の法則に従うようになつた者達は、宇宙の意識に導かれて、宇宙の意識と一体化できるといふことを認めらるであらう。

一〇、あなた達は、信念をもつて悪魔細胞と戦つて誤りを斥けたので、肉体の変化する時(注・他の中枢からの利己的な影響の時)にも、また、磁気的な変化のある時にも意識の印象に導かれ、守られているであらう。そして良い事も悪い事も記録されるであらう。

一一、宇宙的な道を歩む細胞は秩序ある細胞に変わるであらう。永遠の幸福が生まれる源である意識が外来の利己的の想念と組み合わされることのないように、宇宙の真理の中にいなさい。(注・そしてそのレベルにある人間は、転生する時にあらゆる宇宙的な記憶を所持して行くであらう)

一二、宇宙の意識に従つて歩む者達は、宇宙の法則により、神経中枢を支える者達となる。彼らは歩み続けるであらう。そして宇宙の意識から宇宙的印象を得、向上への道は開かれるであらう。

一三、理解する者は、宇宙の意識に従いなさい。

一四、大脳皮質(注・脳下垂体)と一体である細胞へ。

『宇宙の真理として我々が確認している、忠実な、宇宙の法則、意識的な想念、創造主が以下のように示される。

一五、私はあなたのカルマを見ている。あなたは意識に従つて宇宙的な道を歩みもするが、時には意識を否定し、利己的な道を歩みもしている。むしろ、意識的

な想念と細胞についての宇宙的な事柄を否定するか、認めて従うかのどちらかにする方がよい。

一六、その結果あなた達は、創造主から分離して、混乱・空想の中にあることになるであらう。

一七、あなた達は、自分達は宇宙の法則からの知識を豊かに得ているので、さらに他の知識を必要としないと言っている。しかし本当は、あなた達が宇宙の法則について考えていることは、もろい壁のように崩れやすいものであり、宇宙的知識を欠く者であり、これ以上理解しようとしないう者、意識に従うという信念に欠ける者である。

一八、それであるから、あなた達は意識と一体になって、意識の印象を感じて歩みなさい。また、意識を出現せしめる行ないを否定し、歪曲しないように、物事に接する時には意識と一体となり、理解力を増し、そのように宇宙の法則が否定され、誤つて使われないようにしなさい。

一九、これを行なう者は創造主に守られてはいるが、悪魔細胞との戦いにより、さまざまな試練を受けるであらう。だからそのために、因の領域を探求し、習慣的な想念を解放しなさい。

二〇、宇宙の意識は常に呼びかけていることに気付きなさい。どんな人でも、信念をもつて意識に従つて行動するならば、あなた達各細胞それぞれの抵抗は除かれ、エネルギーが浸透し、意識と一体となって行動するようになるであらう。

二一、意識に従つた生活をして、意識と

一体である者達は、意識的意識の状態になるであらう。それは父なる宇宙の英知と宇宙的細胞が一体になることと同じことである。

二二、神経中枢のもとにある、このことを理解する細胞は、意識に従いなさい』

第四章

一、それから、私は意識的意識の状態になった。そして、宇宙の意識の「原因の世界と一体になりなさい。そうしたら、意識との一体化が生じ始める時と、なされた後に起こるべきことを見せよう」と言う印象があった。

二、すると、たちまち、意識との一体感が得られた。そして意識のパワーの宿っている所があるのを感じた。

三、その英知あるパワーは、太陽の光が赤から青へのスペクトルでできていように、宇宙的なあらゆるものを感しており、また、そのパワーが(注・オーラが)見えていた。

四、また、そこには二十四の神経系統があり、それは二十四の純粋な、宇宙の英知による電気エネルギーの経路となって愛と英知とを現わしていた。

五、宇宙の意識からは、光輝とさまざまな想念と助言とが発せられていた。またそこには、心を支配する七つの神経中枢と意識的なものを支配する神経中枢(注・各神経中枢の二面性)との創造エネルギーが宿っていた。これらは意識の七つの面の現われである。

六、その神経系統の細胞群の感情は静か

であった。また、意識の径路として意識のエネルギーを得ているが、意識と一体である面と、一体ではない二つの面をもつ、四つの感覚器官があった。そしてそれらは宇宙的な理解力をもつており、想念に対して警戒的であった。

七、第一の感覚器官は真理の力と自己満足(注・二面性)とをもつ耳(と、それと関連している太陽神経そう(注・副腎))であり、第二の感覚器官は宇宙的な愛と自己保存とをもつ鼻(と、それと関連している仙骨尾てい骨神経そう(注・性腺))であり、第三の感覚器官は知恵の力と生活力とをもつ口(と、それと関連している腰仙骨神経そう(注・ライデン腺))であり、第四の感覚器官は因の世界を見る力と繁栄のための力とをもつ目(と、それと関連している心臓神経そう(注・胸腺))であった。

八、この四つの感覚器官は均整のとれた力をもつてはいるが、他との関係によって宇宙のか利己的かのどちらかになり得るものであり、しかし想念に対して警戒的であった。そして常にこう言っていた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神。

無限の過去・無限の現在・無限の未来にある創造主」。

九、これらの感覚器官が活動や活動の因が意識であることを認め、永遠の生命である意識に感謝をすると、

一〇、二十四の神経系統は意識的意識になり、永遠の生命である意識と一体化し、愛と英知が意識から神経系統を通し

て現われ、そして神経系統は以下のように現わっていた。

- 一一、「私達を生かしている創造主よ、あなたこそは、
あらゆる活動と活動の因であられる。
あなたは万物を創造された。
あなたの想念によって万物は存在し、
また創造された」

第五章

- 一、私はまた、宇宙の意識により創造された人間を見た。その人間の因の領域にそして結果の領域に意識があり、意識は七つのチャクラの中で眠っていた。
二、また、宇宙の意識の恩恵を受けている細胞が言った。「そのチャクラの扉を開き、意識のパワーが現われるようにでさるのほだれか」
三、しかし、肉体のどの細胞も、七つのチャクラにある意識のもつ、あらゆる面を理解できるものはいなかった。
四、もしどの細胞もできないなら、地球人は死滅してしまうことになり、私は悲しんでいた。
五、すると、二十四の神経系統をもつ太陽神経そうの一つから印象があった、「悲しんでいないで見なさい。これまでさまざまな体験を得てきた宇宙の意識が、宇宙的細胞を通して普遍的な愛を放ち、利己的な想念を征服し、肉体細胞を秩序づけ、七つのチャクラを開くことによつて、宇宙の意識のパワーを現わし、それぞれの所にあるものを見ることができるようになるであろう。」

- 六、私はまた、頭部の神経組織と、四つの感覚器官と、二十四の神経系統それぞれと一体である、今まで認められていなかったような、宇宙的細胞を見た。その力は全能であり、その知恵はあらゆるものを知る知恵であった。そしてこれらの細胞があらゆる細胞へ送っているのは宇宙的な英知であった。
七、宇宙的細胞は宇宙の意識と一体になった。
八、そして宇宙の意識が彼らを通して、あらゆるものを秩序づける想念を放つと、四つの感覚器官と二十四の神経系統それぞれは宇宙的想念を放ち、宇宙的想念に満ちた細胞と一緒にあって、宇宙の意識に対して謙虚になり始めた。この宇宙の想念は、宇宙的細胞の慈愛をもった宇宙的なフーリングのことである。
九、四つの感官と二十四の神経系統は、新たに宇宙の意識を認めて高揚し、愛情のパワーをほとばしらせ、彼ら自身の生命を強烈に現わして言った。
「あなただけが、あらゆる細胞の生命の状態を探求し、理解することができ、各神経中枢の扉を開くことができる。あなたは謙虚さと奉仕とで創造主と一体化し、宇宙的な各神経中枢の支配下において宇宙の真理を得、日常生活では善といわれる事を行なっている細胞それぞれを助けることができる。」
一〇、そして各細胞が、創造主の愛と知恵をもった創造物となり、また、創造主は各細胞の内にあり、各細胞は創造主の内にいるのである」
一一、さらに見ていると、神経系統と感

叫と、神経系統の英知の支配下にある、肉体の全細胞群が創造主を認め、それから宇宙的な想念が放たれた。それは宇宙の真理を現わし、宇宙の法則を示し、
一二、こだわりがなく、そして言っていた。
「宇宙的な細胞こそは、
力と、科学と、知恵と、信念と、宇宙の法則と、宇宙の真理と、創造主から受けられるあらゆるものを受けるのにふさわしい」

- 一三、また私は、あらゆる細胞群が創造主を認め、宇宙的想念を放つて言っているのを聞いた。
「宇宙の意識と宇宙的細胞とに、
宇宙の法則と、宇宙の真理と、力とが永遠にあるように」
一四、四つの感官は宇宙の意識を確認し、神経系統は創造主、宇宙の意識に対して謙虚になった。

第六章

- 宇宙的細胞が七つの神経中枢の一つ、仙骨尾てい骨神経そう(注・性腺)の扉を開いた時、私が見ていると、四つの感官の一つである鼻が、「自由である」というのを聞いた。
二、そして見ていると、宇宙の真理に対する理解力をもった想念が現われた。それを放っている細胞は、宇宙的想念で利己の想念を置き換え、また利己の想念に打ち勝つことができるという信念をもち、一つの良いことの上に、さらにその線を越えて前進しようとして生長していた。

三、宇宙的細胞が第二の神経中枢、太陽神経そう(注・副腎)の扉を開いた時、第二の感官である耳が「自由である」というのを聞いた。

- 四、すると今度は、結果の世界にとらわれている利己的な愛をもった想念が現われた。そして、それを放っている細胞は憎しみと苦しみと不安が生ずるように、慈悲心や、肉体と心の弛緩を取り去る力をもち、また、宇宙的真理を破壊する利己的な誤りをもっていた。
五、また、第三の神経中枢、腰仙骨神経そう(注・ライデン腺)の扉を開いた時、第三の感官である口が「自由である」というのを聞いた。そこで見ていると、宇宙の真理に対して誤った理解力をもった想念が現われた。しかし、それを放っている細胞は、宇宙の真理と、日常生活での宇宙的な事とを評価する力をもっていた。

- 六、すると、私は四つの感官を通して宇宙の意識がこう言うのを聞いた。
「日常生活での宇宙的な事と、宇宙の真理との評価がほとんど皆無と言ってもよい程であるため、日常生活での宇宙的な事を行なう源である慈悲心と宇宙の真理とを汚し、冒瀆しないように注意しなさい」
七、宇宙的細胞が第四の神経中枢、心臓神経そう(注・胸腺)の扉を開いた時、第四の感官である目が「自由である」というのを聞いた。

予知夢と 八月十四日

小林正弘

以下の内容は本年三月十一日、東京上野の東京文化会館における月例研究会で小林氏が長時間にわたり発表された報告を録音したテープから一部分再録したもの。テープを提供された鈴木一宏氏に感謝する次第。
(編者)

一月十四日の伊豆大地震を 夢で予知

ぼくはアダムスキーの書物は去年の六月頃から読み始めて、まだ完全には読んでいないのですけれども、ぼくの体験した夢と現実との一致と、予言の中の物語について考えるようになったのも、去年の五月か六月頃でした。これを今まで言わなかったのはバカにされるから言わなかったのです。

今年の一月十四日は今年度最初のGAP東京月例会の日でしたが、この日に伊豆半島で地震がありました。それは昼す

ぎの十二時半頃でした。ところが、この「一月十四日」という日付は一カ月前に夢の中で現われたんです。一カ月前の十二月は、ぼくがアルバイトで一生涯懸命に働いていた頃でした。

その夢の中で一人の子供が現れましてそれが、なにかこちらに迫って来るような感じで路上に倒れたんです。その瞬間にパッと「一月十四日」という日付が見えたんです。この夢の印象は強く記憶に残っていましたから、夢日記をつけることはしませんでした。そして一週間もその夢のことは覚えていませんでしたから、アルバイトを一生涯懸命にやっていたんですが

忘れてしまったんでしょね、そのうち友達の家へ行ったら、「おれ、こんな夢を見たよ」と言って、ぼくと同じ夢の話をするんです。「そうか、それは自分のと同じ夢だ」と言って、「一月十四日」という日付が現れたのか？」と聞いたら、現れたようだが、はっきり覚えていないと彼は言うんです。

夢を覚えるようになったのは去年の十月頃からで、毎日のように覚えていました。夢の中にきれいな女性が現れたり、女性か男性かわからないような男が見えたりしました。そして一月十四日という一カ月後の日付は、友達が「変動」ではないかと言うんです。そして偶然にもその日に地震があって、その日には多数の死傷者や行方不明者が出たり、また地すべりで生き埋めになった子供がいたとか報道されていました。

そういう予知の現象は一体どこから来るのか、どうして自分だけが一月十四日という日付を見たのだろうかと考えてみるんですが、なかなかジョージ・アダムスキーの本も読むひまがなくて科学的に立証できるとはぼくに言えないんです。ただ自分の体験を述べることでしかできません。

本年八月十四日に 何かが起こる？

日付に関してはもう一つあります。それは「八月十四日」という日付です。これは去年の十月十四日に見た夢の中でアジサイとか暗くなるとかいう情報が現れて、それから三日後に「八月十四日」と

いう日付が夢の中に現れたんです。十月十四日からちょうど十カ月後が八月十四日です。どういうわけか十月十四日にまず暗示的な夢を見たわけです。自分自身で究明すると、ちょうど十カ月後の八月十四日に何かが起こるんじゃないかという気がするんです。一月十四日も偶然起こったんですから――。

それから、ぼくも去年は四年生で卒論の方も一生懸命にやったんですが、五月のある日、突如テレパシーがはいりまして、それは女性の声なんです。――そのときはテレパシーという言葉すらわからなかったんです――アダムスキーの本すら読んでいませんでしたし、UFOに関心はありませんでしたが、その関係の雑誌を趣味で読むことは全然ありませんでした。ぼくの卒論というのは聖書に関する事なんですけれども、アダムスキーの「テレパシー」とか「生命の科学」などを読んでいるうちに、徐々にそうした声や映像が「見させられる」と言う方がいいと思うんですけれども、それが現実の出来事として起こっている例もあるんです。ただし詳細はお伝えできません。

そこで友達の家に行ったところ、そうした夢を見た記憶がなぜか思い出せないというか、記憶が消されてしまったというか、物質的な何かにさわるような感触がありました。それはなぜか思い出せないし、記憶を消されてしまったのか。話したのは、ある夢の中の出来事を話したわけです。

それから二月の末頃、たしかFM東京の二月二十七日の朝の番組で、東京タワ

1 付近に UFOらしき物体が現れたと報道されまして、興味はあったんですけど、まさかと思って友達に聞いたところが、午前十一時頃、一瞬電波がとぎれたというのを聞いたんです。それ以前の一月末の夢の中で聞いたことは「カラー電波」という言葉でした。「ジャック」とは言いませんでした。去年の朝日新聞に、イギリスの南部一帯に UFO による電波ジャックがあったというトビックスを見たものだから、それとなにか一致するような気がするんですが、これが八月十四日に関係するような気がして仕方がないんです。

谷川岳の怪現象

昨年五月の二十二日から夢のことが気になりだして、それがもとで学校へ行っても先生の話や友達同志の話が耳にはいらなくなりました。それほどに強烈なテレパシーがはいるようになったんです。それもなにかロボットが自分に問いかけて何かを録音しているような状態です。たとえば、いろんな事をしゃべって、それが一体どういう意味で、どういうことなのか、どうい関係があって、どういうふうにするのですか、というようになにか言葉を聞いただしているような對話が二、三週間続いているうちに、自分の食事すらおろそかになり、睡眠もできないし、本も読むこともできなくなり、半年間休学して、郷里へ帰って自宅療養しているうちに、徐々に精神的に快復してきました。これで大丈夫だろうと思っ

ていましたら、また九月になって、いやけがさすほど、しつこく執念深く追ってくるもんですから、あるときは眠らずにいたほうがいいんじゃないか、夢を見ないでいるほうが自分が苦しまずにすむんじゃないかと思っただけですが、それでもまだ――。

それで自分の好きな写真をやったり山へ行ったりしました。しかし山の計画は眠れなかつたり目的がなければ行けませんから、その計画すら彼らが見通しているような気がしました。「彼ら」というのは、どうも、「だれか」がいるんじゃないか、ということなんです。それ彼らから見つめられているような感じがしてきたのは、九月の写真をやったり山へ行ったりしたときで、そのときは谷川岳へ行く計画を立てて、水上から谷川岳へ登って二泊三日の縦走計画で土樽へ下る計画でした。

水上で下車して一時間ほど歩いたら、笑い声がするもんですから、登山者がいるなと思っ、ひとりぼっちで夜道を歩いているのも淋しいもんですから、声でもかけられたらいいんだがと思ったら、人気がないし、タバコを吸って、なぜかその人はカバンを持って背広を着てネクタイをしめているんです。不審に思ったら右の方でフラッシュをたいような光があったと思い、空を見上げたら、白い光のような物体がスーッと動いて、山の方へ消えてしまったんです。それで、またどんだん山の中へはいって行きますと、カミナリでもないし、妙

な光が前方に見えるんです。行ってみると何の変化もないし、カミナリの音もしないので、おかしいおかしいと思っ歩いていたら道に迷ってしまっ、真っ暗で、ガスが多少かかっいて、懐中電燈で照らしてみても三メートルぐらいいしか視界がきかないような状態でした。しかし山のことですからガスが消えるのも早いです。

道に迷ってしまった所で、どういわけか真ん中に濡れている石が一つだけあったので、そこへ行ってみたら石碑があったもんですから、ああ、この道だと思っ、どんだん歩いて行きました。前から見えていたフラッシュのような妙な光が移動したことがどうも気がかりで、仕方なく谷川岳を考え込みながら歩いて、計画を実行しました。

UFO のオレンジ色の光は高校二年生のときに一度見て、それ以来、交通事故を起こしたときに、病院から飛行船のような感じでオレンジ色に光る物体が左から右へゆっくりと移動していくのが見えました。飛行船というのは夜飛べないことを知らなかったもんですから、たぶん飛行船だろうと思っ見ていたんです。そうではないことが友達や知り合いの人の話でわかりました。

交通事故を起こしたのは昭和四十九年で、キドカラーという宣伝に使った飛行船のような気がしましたが、その飛行船は夜間飛べないことが何カ月後にわかったんですが、そのときは知りませんでした。

過去を振り返ってみますと、ぼくには

何かがあるんじゃないかという気がしてならないんです。昨年七月の上旬のことですが、昼頃寝ていたら夢を見て、池袋へ出て東上線の駅の名前を耳にしました。「志木と朝霞の間の駅に来てみませんか」という男の声が出て、ぼくは「腹がへつているからだめだ」と言っただけです。そしたら、「さっきは行くと言っただけじゃありませんか」と言うので、「ああ行くと言っただけで腹がへつて行けないだけでメシ食ったら行きますよ」というような会話があって、今度は女性の声で「それじゃ、それをきっかけにしてください」と言われて、ハッと目覚めました。それから一生懸命にその夢の意味を考えていたら、「午前三時の天気予報を調べてください」と夢の中で言われたことも思い出して、テレビの天気予報を見たりしていましたら、台風が接近して来るといので、たぶんこのことを言っただんだんと思っ、夜九時頃から夕立ちとなつてカミナリもありました。がとにかくずぶぬれになつても行かなくならないと思っ、新しく出来た駅で「朝霞台」という駅があるんですが、そこへ行っ雨がやむまでしばらく駅のホームにいました。

空を見上げると何かが見えるんじゃないかと思っ十一時頃に見上げたなら、不規則に運動する光の線が一瞬見えたんです。

テレパシーで観察されていた？

ぼくは卒論そっこのけで体験やその日

付に一生懸命になったことがありまして狂わしいほどに彼らを(宇宙人?)を追いかけて、ある場所でおち合おうというメッセージがありました。ぼく一人じゃなくて、横浜にいる人といっしょに——その人の顔と名前は知っていますが言えません——行って、ある場所で会ったんですが、ぼく自身はあまりにも突然で、未熟でしたし、五月からのテレパシーでもって自分が今までしてきたことが見られてるんだという恥辱がありましたから、どうしても直接会うという状態にはなれませんでした。あまりにもみじめな体験ばかりなのに、彼らはすごく美しく清らかな心を持っている人ばかりだと思っていましたから——。

それで遠くから見ていれればいいんじゃないかと思つて、遠くから見たいんですけれども、髪の毛の長い女性でした。男の人が一人いましたが、見てみぬふりをして相手は遠ざかって帰ってしましました。そして、その後状態が次第に悪化してくるようになって、これじゃまたいけないんじゃないかと思つてました。そして、彼らがぼくの心をきれいにしようとして、十月の末なんです「健康によいこと、きれいな心を持つにはどうすればよいでしょうか?」と問いつめる日が一週間続きました。ちゃんと朝食はたべて、昼飯もたべて、学校へもまじめに行つたんですが、五月頃と同じように食欲はなくなるし、不眠症にはなるし、自家中毒症状になり、彼らにはもう何も聞かない、見るまいと努力しても、相手はしつこく執念深く追ってくるんです。それ

も自分の言葉をまるで鏡に映したように返して来るんです。ですけど、そのことを聞くと、自分のみじめないやな事ばかりしゃべっているのが聞こえてくるもんですから、しまいいには自殺を考えた日も一度ありました。その日は、自分の頭で考える想念——ご存知のようにジョージ・アダムスキーの本の中で述べてある想念というのは、常に人に奉仕をしてる状態のわけですが、その想念が彼らに悪影響を及ぼしたらいいんですが、自分は何も気がつかないで、要するに自殺という印象ですね。電車の下へ飛び込もうとか、線路上に寝て首でもはねられるとか、いろいろ考えました。

そうしているうちに徐々に疲れて寝てしまつたんです。そうすると、自分の部屋のあたりが見えるんです。そして二人のローブを着た男と、女が一人いて、ぼくに対して、「明日までに殺してしまわねばいけない」と言うんです。ぼくはすごく恐れて、あまりに苦しく目覚めたら、だれもおらず、自分一人がぼつんと寝ていたんです。

そうしているうちに、八月十四日のことがどうしても気になって仕方がなくなりました。マタイ伝の二十四章のことをご存知ですか? あれはイエスが弟子たちに、世の終末に起こる出来事を予告したというか言葉をあずけたように書いてあります。雲に乗って来る子が現れると書いてあつたように思います。この二十四章のことも夢の中で言われまして、一体マタイ伝の二十四章とは何かと思つて調べてみたら、なにか不吉な感じがして

仕方がないんです。そうしたら何年か前に夢に見たことも回想するようになってしまつたんです。

そして昭和四十八年の春ですが、それは四月の末で、これも夢が現実を起こつたことなんです。新聞を見ればわかるんですが、やはり経済的な面でアルバイトをしていて、友達が上京して来て、ぼくの所に一カ月居候いこうをしている間に夢に現れたことなんです。

それは「二十九」という数字と、「死ぬ」ということなんです。「おまえは、おれの分まで長生きしてくれ」「なにをバカなことを言ってるんだ」というようなやりとりがあつて、その日にタツマキの夢も見たんです。翌日起きて、これは単なる夢だとは思いませんでした。その日はいつものとおりに学校へ行つて、それからアルバイト先へ行きました。そのアルバイトは夜の六時から朝の六時までという真夜中のアルバイトでして、その朝方のニュースで、西日本の太平洋側でしたか、タツマキがあつたという報道でした。ハッとすると、前日にタツマキの夢を見たことが報道されたもんですから、なにか一致するものがあるんじゃないかと思つてました。

一九八二年に大異変?

いまその夢を思い出しますと、「二十九」というのは、あと四年たつとぼくは二十九歳になるんです。つまり一九八二年がぼくの二十九歳です。その一九八二年というのは惑星直列の起こる年で、そ

れに関する本が出ていますが、その本は昭和四十八年には発表されていなかったと思つます。その八二年とぼくの二十九という数字が一致するのですが、どうも自分で考えてもよくわかりません。

とにかく今年の一月十四日と、一週間前にまた地震がありましたし、太平洋に地震がありましたし(編者注)今年には異常に地震が多い、今年は何かが起こるんじゃないかという気がして仕方がないんです。それと、八月十四日に何かが起こるかどうか、みなさんの頭の中に記憶していただければ幸いと思つます。

カラー電波がジャックされるのかどうかはわかりませんが、とにかく、ゴールデンアワーといえれば午後六時から九時までではだれしもテレビにかじりついて見る視聴率の高い時間です。八月十四日というのはお盆で、ほとんどの働いている人には休日だと思つます。このことが突然起こるよりも、前もって知つていて人が来るべきものが来たなと思われるほうがいいんじゃないかと思つます。

編者付記 小林氏の談話のあと交わした編者との質疑応答で、今年八月十四日の異変というのは大地震の発生を意味するのかもしれない、と小林氏は述べられた。これについてはマタイ伝第二十四章を示唆されたので、読者も目を通されるとよいだろう。なおこの記事は一つの情報として掲載したもので、本誌は客観的立場にたつことを付記する。

UFOと日本人

久保田八郎



この記事はアダムスキー問題に深い関心をもつ某新聞社の婦人記者との対談録を加筆訂正したものの。

作られたUFOブーム

——今年アメリカから「未知との遭遇」という大型のSF映画が来て、UFOブームが起こりましたが、このブームの影響というか、今後の見通しなどについてはどうですか。

「そうですね。今年は私も各種の週刊誌からインタビューを受けたり、なんだかんだとありましたが、私自身はまだあの映画を見ていないんです。だから映画の内容については何とも言えませんが、おそらく一時的なブームであって、長続きはしないと思いますね。いまのUFOブームといったところで、しよせん映画による作られたブームですからね」

——なぜ映画をごらんにならないのですか。

「見に行こうという衝動がどうしても起こらないんです。私はアダムスキー哲学にもとづいて、内部からわき起こる衝動や印象に従うように自己訓練をやっていますから、衝動が起こらなければ実行に移しません。しかし誤った結果に導く衝動や印象もありますから、正しい印象に従うためには、それなりの自己訓練をして、宇宙的な性質を土台とした印象を感じる練習を行なう必要があります。これはテレパシー開発の基本となるものです」

——そうすると、つまらない映画だから、見ても無意味だという印象を感じたわけですか。

「いや、映画自体の内容はともかくとし

て、どんなにすぐれた映画であるにしても、あくまでもフィクション（作り事）ですから、UFO問題をノンフィクション（事実）として追跡してきた私には、関心が起こらないんです。もちろん無数の映画のなかには芸術作品として立派なものがありますが、それなりの価値はあると思いますが、ことUFOに関してはフィクションでは物足りませんね。

UFOの劇映画といえ、むかしアメリカ映画で『地球の静止する日』というのがあって、たしか日本でも公開されたと思います。私は一九七五年の秋にカリフォルニア州ビスタのGAP本部を訪れたときに、この映画を見せてもらいました。これはアラスカのジュノーで実際に発生した事件を映画化したもので、着陸した円盤——アダムスキー型円盤——を軍隊が包囲するという緊迫した状態の中で一人の宇宙人が出てきて、身の危険をかえりみずに米政府に平和運動を働きかけるというような筋でした。しかしこの映画でも舞台はジュノーからワシントン市に移されていて、ちょっとがっかりしましたね。どうせ作るのなら徹底的に事実を追跡して、ありのままに描写するほうが迫真感があると思うんです。そして『これは事実を再現したセミ・ドキュメンタリーだ』とうたうほうが受けるんじゃないでしょうか。なにせ一般大衆はまだUFOの存在をあまり信じていないし、関心もないんですから——」

日本の風土ではダメ？



●ハリウッドの映画館。『スター・ウォーズ』の看板が見える。

——そうすると、いまのブームもたいしたことはないですか？

「私自身は二十七、八年間UFOの研究活動をやってきましたから大体にわかるつもりですが、日本の風土ではUFO問題は伸びないと思うんです。雑誌の「宝石」四月号に、私が司会して、横尾忠則

氏と斎藤守弘氏との3人でUFO問題を語りあった対談記事が出ています。そのとき横尾氏が、東南アジアのある都市でアメリカのSF映画の『スター・ウォーズ』を公開したところ、客がはいらなかつたらしいと言って笑っておられましたね。『スター・ウォーズ』というのは

昨年夏にアメリカで大ヒットしたSFの超大作です。私が八月中旬にハリウッドへ行ったとき、その映画館の前で長蛇の列を見て、おどろいたんですがね。今年も日本に入ってくるそうですが、おそらく大都市だけのブームで終わるんじゃないでしょうか」

——東南アジアよりは日本のほうが関心度は高いけれど、それも一時的なものだということですね。

「おそらく、そうだと思います。こうした宇宙的なものに対する関心が、なにか文明の発達程度を示す尺度になるような気がするんです。映画作りにしてもスタンリー・キューブリックのあの有名な「紀元二〇〇一年宇宙の旅」というような作品は日本では絶対に作れませんからね。もっとも原作者のアーサー・クラークはアダムスキーをひどくけなした人ですけれど、作品を見て意外に思ったのは、アダムスキー的な要素がかなり盛り込まれていたことです。特に哲学的な面で——」

——でも日本はUFOの分野でもかなり先進国なのではありませんか。

「そうは思いませんね。欧米に比較すると、相当に遅れている面があります。数年前、アメリカのギャラップ世論調査によりますと、アメリカ人の2人のうち1人はUFOの存在を信じているようで、しかも高度な教育を受けた人ほど、信じる傾向があるということです。日本ではとてもまだまだ——。こうした点でも日本の実態の一面をあらわしていると思います」

未発達な生活文化？

——しかし、これほどに日本の物質文明が発達していれば、対宇宙的な意識も拡大しそうなものですが——。

「いや、日本の生活文化からして、まだ未発達な状態といえるんじゃないでしょうか。もっとも文明とか文化とかが何を基準にして定義づけられるのかはよく知りませんがね。たとえば、日本の水洗トイレの普及率は現在三十パーセント代で、まだ四十パーセントに達していません。これはビクトル・ユゴーの『ああ無情』に出てくるジャン・バルジャンの時代のフランスにおける普及率と同じなんです（注||『ああ無情』は（一八六二年に発表）。つまり日本中の家屋の六十何パーセントかは、いまだに汲み取り式トイレに甘んじているわけです。いまの日本人の九十パーセントは中流意識を持っているということですが、もし、家の中に汚物をため込んで屋内に臭気をただよわせながらピアノと自動車があるから中流だと意識するのが日本人の実態だとすると、こんな風土では宇宙に対する夢やロマンは発達しないでしょうね」

——それは政府とか為政者の責任であって、国民の生活意識とは直接関係のない問題ではありませんか。

「必ずしも為政者や国土の狭隘だけが原因ではなくて、住民の側の生活意識の問題もあると思いますね。つまり汲み取り式でよいのだとか、臭気がただよふのは仕方のないことだと思いついて、

に問題があると思うんです。

都市作りにしてもそうです。迷路のようなメチャクチャな道路は東京が典型ですが、これは日本人の思惟法に論理性のない証拠としてよく引き合いに出されることです。東京在住の外人の大部分は、東京という町について否定的だと、いつか新聞に出ていましたがね」

——そうすると、論理的な白人のほうが宇宙に対する夢やロマンを持ちやすいというわけですか。

「いや、そういうことではなくて、情緒的な日本人は、いったいに、あまりものを深く考えない傾向があるということを指摘したかっただけのことです。これは宗教学のある大家の説でもあるんですがね」

——でも日本人は宗教的というか精神的というか、唯心の面がかなりあるんじゃないですか。

「全然、逆です。現代の日本人は——。宗教的哲学的な感性を持たないとは言えないでしょうが、あっても希薄です。もっとも現代の若いドイツ人でもヘルマン・ヘッセの作品で象徴されるような求道精神を失ってしまったということですか



●ヘルマン・ヘッセ



●ラフカディオ・ハーン

ら、これは世界的風潮かもしれない。既に宗教に対する不信や失望が原因となつて、宇宙志向となり、UFOのごとき不可視の存在物が関心の対象になつてくるとも言えるでしょうが——、白人社会の実態はよくわかりませんね。ラフカディオ・ハーンは日本人特有の神秘性の発見者として知られていますが、それはやはり白人の目に映つた一種のエキゾティシズム(異国情緒)の領域を出なかつたと思うんです。ちょうどヨーロッパ文明を嫌悪したゴキガンがタヒチにのがれて原始的な環境の中に一種の霊性を見たとか錯覚を起こしたのと同じくらいではないでしょうか」

雄大な面もあった

——そうすると日本人に対しては悲観的なのですか。

「絶対にそういうわけではありません。日本人には偉大な面もあったと思えます。先日日本橋三越で『平城京展』というのを見たんですがね。西暦七〇八年(和銅一年)に造都が開始された、いわゆる奈良の都の巨大な復元模型が展示

されていましたが、その精密さに一驚したのですけれども、それよりも唐の長安の都を模したというゴパン目の壮大な都市計画に全く圧倒されましたね。実に雄大な都市で、現代の日本の無秩序な町よりもはるかに機能的でモダンです。当時としても世界に誇り得るものではないでしょうか。日本人の都市計画専門家を長安に派遣して技術を学ばせたのか、それとも長安から技術者を招聘したのかは知りませんが、いずれにしても、あれだけの大都市を建設する夢を持っていた当時の為政者の進歩的な精神には感服のほかありません。後にこれを陵駕するほどの大規模な平安京も京都に建設されましたが、日本人の雄大さは大体にこれで頓挫して、あとは内乱が続き、徳川時代にはいつて、権力欲というエゴに満ちた支配者により日本人は三百年間冬眠状態におちいります。当時の江戸城は驚くほど大規模で複雑な機構に満ちていますが、しかしこれは権力者のための築城であつて、平城京のような民衆の生活環境を考慮したものではありません。

幕末から明治の初期にかけて一大革命が起こり、西洋の文化の導入が行なわれましたが、でたらめな江戸の都市構造は大体にそのまま継承されています。以来百年有余を経て、日本が飛躍的な発達をとげたことはたしかですが、一昨年もヨーロッパへ行つたとき、同行者のなかの国粋主義的な人がロンドンやパリを見て『これから見ると東京はたいしたものだ』と感嘆していましたけれども、現代の東京は『世界的田舎』といわれるほどに野



●家屋が不規則に密集した江戸川区の一画。

暮な町で、西洋のものまねと東洋人特有の妥協主義によってでっちあげられた疑似都市ともいふべきものではないかと思うんです」

——ずいぶん、手きびしいですね。

「事実がそうだから仕方ないんです。私が住んでいる江戸川区にしても、これが世界の先進国首脳会議に首相を代表として送り出すほどの国の首都の一部分かと思うほど、乱雑で非機能的で、不潔な民家の密集した地区になっていきますものね。都市構造は容易に変革できないにしても、個人の住宅はそれこそ持主の自由でどうにでもなるんですから、小さな家でももっと頭を使えば合理的な快適な住宅が出来ると思うんですがね」

——そうすると、日本人は合理的な考



●平城京の復元大模型。(奈西市役所に保存されている)

え方に欠けている？

「そうですね。合理とか不合理とかいうことが知脳の程度の測定要素になるかどうかは知りませんが、少なくとも計画性にとほしいとは言えるでしょうね。私はマンションの部屋を借りて住んでいます。マンション内のゴミ捨て場へ行きますと、まだ使えるはずのソファや家具類やテレビなど、立派な物が粗大ゴミとして沢山捨ててあるのを見て驚くんです。大変な浪費ですね。要するに生活設計が未熟だということでしょうか。もともと日本人のすべてがそうではないでしょうが……。つまり新しいものに絶えず振りまわされて目移りがするということでしょうか、生活文化に対する考え方の中に骨すじが一本つらぬいていないという感じですね」

「だから、こうした風土ではUFOのような超科学的な物に対する意識は希薄だ」と。

「そうですね。もうひとつは学校教育の内容や制度の影響も多分にあると思いますね。私がUFOの研究をやってみてわかったのは、日本人の青少年でUFOに対する関心は中学生のときか高校の低学年の頃、一時的にパッと開花するんですが、進学準備に追われるのか、高校の高学年になると低下し、大学生になると、うんと減少して、社会人になるともうだめだという傾向です。結局UFO問題も日本人にとっては興味本位の域を出ないという感があります。ですから大人でこの問題に関心を持つ人は、よほど特殊な人だと思えますね」

「アダムスキー問題はどうか。やはり伸びませんか。」

「あまり伸びません。一時的に興味本位でGAPに入会しても、まもなく去って行く人がかなりいます。これはアダムスキー問題が単なるUFOの入門手引きというよりも、特殊な哲学を含んでいるからです。これに関心を持って地道に研究を続ける人は、ある種のカルマを持つ人なのです」

カルマと転生について

「……といいますが？」

「カルマというのは古代インドのサンスクリットでいう『カルマン Karma』から出たもので、仏教では『業』と訳されています。つまり人間の行為が死後の運命の原因になるというインドの輪廻思想をあらわしたものです。この思想によれば、現世の行為が未来の天、地獄、環境などを決定するので、その業をつぐなうことによつて解脱の心境に達することができるというもので、バラモン、ジャイナ、仏教などで説かれています。これを明確にしたのはウパニシャッドの哲人であるヤージュニャヴァルキヤで、いわゆる因果応報の法則を導入したわけですが、しかしアダムスキー哲学を研究する私たちは、このカルマという語を「原因と結果」という意味にとらえ、更に「宿命」というような意味を持たせたりして使用します。この「原因と結果」はアダムスキー哲学の重要な理論でして、古代インドの輪廻転生説とは少々異なるものなんです。」

です。

そこで私が、なぜ今生でこんな理想主義活動をやらねばならないかという疑問に対する解答は、「過去世でそのような原因を作ったので、宿命として今生でそれを行なうという結果が生じたのだ」ということになりました。これをカルマといっているわけです。ここには転生(生まれかわり)という問題が含まれていますが、残念ながらまだ科学的に認められていません。しかし、二十一世紀になれば転生の神秘に対する科学的な説明がなされるようになるでしょう。

この転生(生まれかわり)という問題になると、白人よりも日本人のほうがわりと認めやすい傾向にあるのはおもしろいですね。一体に東洋人は先天的に転生思想を持つとみえて『生まれかわりなんて、そんなのばかばかしいわ』という日本人の女性でも、『こんど生まれるときには男に生まれてやるよ』などと冗談まじりに言ったりしますが、これは半分は転生思想が潜在していることを示しているんです。だいたい人間が冗談で言うことは、半分は本音だとみてよいのです。そういうわけで、私がカルマにより、今生の生活目標が決定しているというわけなのですが、フレッド・ステックリング氏が来日した折、彼のホテルの部屋でこの問題を語りあったことがあります。彼はもちろんこの問題をよく研究しており、カルマとは言わないで、しきりに英語でデステイニー destiny と言っていました。これも運命とか宿命とかいう意味

です。

このとき私や助手の婿君や彼ら夫妻の過去世について、ずいぶん興味深い話が出たのですが、アダムスキーの遠い過去世の話も出たんです。彼の説明によりますとア氏は中国古代の偉大な王で China という人であったらしいということで、その人に心当たりがあるかと聞くものですが、最初は秦の始皇帝かと思ひ、そのように答えますと、いつ頃の人間かと尋ねます。約二千二百年前だと話しますと、それは違う、もつとはるかに大昔の偉人だと言ふんです。いろいろ考えた末、ハッと思ひあたつたのは『舜』王ではないかということ。これは伝説上の名君として知られる人で、史実は不明とされていましてから実在したのかどうかも明らかではありません。それに「舜」という字を現代中国語でどのように発音するのかわからないもんで、断言はできませんが、まあいわば私のフィリンドでそのように感じたという程度です。話が横道にそれましたが、とにかく、アダムスキー問題を熱心に研究し、特にその哲学を実践する人は、過去世からのそれなりのカルマを持っている人で、一時的に興味を起しても、やがて熱がさめて離れる人は、カルマがなかったという事になります。言い替へれば、離れて行くべきカルマを持っていたとも言えるわけ。しかし、どちらでなくてはならないという事はありません。離れて行く人は別な体験なり学習なりによつて宇宙的な方向に進むでしょうし、どうしても宇宙の法則に気づかぬば、十五

六回の転生を経たあと、個性は消滅するといわれています」

生命の永続を得るには

——そうすると、人間個人の生命は永遠ではないのですか。人間は永遠に生まれ変わるということはないのですか。

「各個人によるようですね。人間は十五〜六回の生まれ変わりの特権を創造主から与えられているけれども、その間に宇宙の法則に気づいて、いわば宇宙の波に乗りなれば、十五〜六回目の生まれ変わりを最後として、淘汰の法則により、本人の实体は『宇宙の意識』という大海に吸収されて消滅するのだとアダムスキーは述べています。私はこの考え方が合理的で、なにか法則性を帯びていると思ふんです。よく宗教などでは、人間の生命は永遠で、人間は永遠に転生をくり返しながら進歩をとげてゆくのだといわれていますが、向上する意欲のない、いわば魂の腐った人間にだらだらといつまでも転生をくり返させるというのは、むしろ公平さを欠くことになるのではありませんか。しかし悟つた人は十五〜六回以上転生を続けるのだそう。因果応報という法則が厳然と存在するものなら、当然人間の心の発達如何についても厳然たる法則が働くと思ひますよ。

そうした法則を『宇宙の意識』と呼んでいるわけ。これは大宇宙空間に遍満するもので——西洋哲学の学者のなかには、そんな『宇宙の意識』などというものは存在しないと云う人もありますが

——、もちろん人体をも生かす根源的なパワーであり、英知であり、しかも意識的なものです。この『宇宙の意識』が人体を通じて人間の存在感を意識せしめていられるわけで、いわゆる人間の表面的な意識の奥底にその源泉として宇宙的な意識が存在して、それが人間の心に正確な情報を伝えるので、人間はまず心を抑制して、内奥の意識の声を耳を傾ける必要があるというわけ。これがアダムスキーの説くテレパシーの基本的原理ですが、十七世紀前半に活躍したフランスの大哲学者で数学者のデカルトが展開した神の存在を証明する方法にも少しこれに似た点があります。しかしアダムスキーの説く宇宙哲学は全く画期的なもので、単なる観念論ではなく、人体の細胞や原子などの機能にも言及していますから、こちらのほうは科学ともいえるわけ。つまり生命の科学です。

まあ、とにかく人間の転生の問題にせよ、人体細胞とテレパシー現象との関係にせよ、これらは二十一世紀の科学として脚光をあびる日が来ると思ひますね」

すると、テレパシーの開発には、求道精神を必要とすることになり、宗教的だという感じがしますが、この点は？

「求道的というよりはむしろ心のユニバーサルな(全包的な)展開を必要とするということじゃないですかね。人間の心は大体に狭く、特にエゴの強い人は狭量で、そのために細胞のリラクゼーションが起ころらず、したがってテレパシクな感受性に欠けるわけです。自分のことしか考えないという人ほど、他から放射

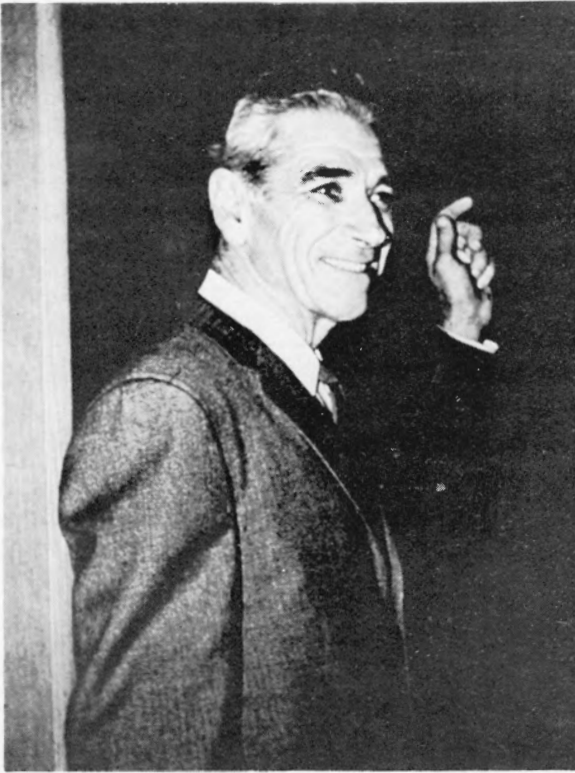


●ルネ・デカルト

される波動——特に想念波動をキャッチできません。その人の心が固いカラを作っているからです。心を広く開放してあらゆる物との一体感を起こすことが、細胞の緊張を解くことになり、知覚力も拡大してこれがテレパシー開発の要素になるので。

こうした心の変化を図ろうとする試みは、むしろ心理学的な方法なのであつて一種の科学なのです。ところが、日本人は大体に宗教、哲学、心理学などの区別がつかず、少しでも精神的な分野を扱うと、すぐに宗教的だと批判します。そこで、それなら宗教とは一体何なのか、それを定義してもらいたいと言ひますと、相手は沈黙します。相手にも本当は理解できないんです。宗教というものを定義づけるのは、かなりの専門家でもむづかしいことで、素人においそれとできることではありませんから、宗教的という言葉は簡単に口に出せば、自分の無知をさらけ出すことになりす。

同様に、やたらと科学的という言葉を用いるUFO研究者がありますが、これも実際には科学の知識を持たない証拠です。本当の科学者は、科学的という言葉



●ジョージ・アダムスキー

を簡単に口に出しません。科学の奥は無限だということを心得ており、自分の持つ科学知識はまだはるかに貧弱なのだというふうには真の科学者は謙虚に感じています。私はそういう科学者を何人か知っています。これは外国語の達人が、必要のない限り他人の面前で外国語をしゃべらないのと共通していますね」

目は口ほどにものを言い

——アダムスキーのテレパシーの理論について、もう少し詳しくわしく。

「ごく簡単に言いますと、まず人体の感覚器官のなかで特に重要な目、耳、鼻、口の四官をコントロールすることから始

めます。なぜかというところ、これらの四官が外界からの刺激を受けて勝手な解釈をするために、心の内部で混乱が生じたり欲望を起こしたりするからで、こうなると、外部から来る想念波動を他の細胞がキャッチして脳内で増幅しようにも、これら四官の細胞軍団の攻防戦のために、できなくなるのです。

「目や耳が勝手に解釈するなんて、とんでもない」と言う人の知識こそ、まさにとんでもないものです。ずっと以前、東北大学の学長だった本山博士は、目の網膜の細胞群が独自の解釈をする事実を発見して、ノーベル賞ものになるところだったのに、同じ研究をやっていたオーストラリアの学者に先を越されたというこ

とがありました。こうした問題はとつくのむかしに科学的に解明されているのです。

こうして四官をコントロールして、勝手な解釈をさせないようにする——言い替えれば四官で形成される心、を中立の状態にします。これはつまり心を静めることです。すると人体の内部の意識から伝えられる宇宙的なフィードバックを土台にした正しい情報、または外部から来る想念波動を捕捉した四官以外の細胞群から来る正しい情報が脳で増幅されて、心の中で鮮明に浮かび上がってきます。これがテレパシーです。ですからテレパシーや遠隔透視の発現に、目や耳などは全く関係ありません。

終戦後でもない頃、ある日の夕方、私が自宅で風呂にはいっていたとき、突然二百キロ離れた場所にいる兄のことがしきりに思い出されて、今頃はこうしているのだろうか、一種の胸騒ぎが起こってきました。そしてその夜、兄が死んだという電報が来たのでした。あとで聞いてみますと、私が風呂の中で胸騒ぎを起こした時刻に、私の名を呼びながら息を引き取ったということが判明しました。これも一種のテレパシーです。こんな例は世間にざらにあります。

想念観察が重要

テレパシーの練習には、なんといつても自分の想念を観察する練習から始めることが必要で、これをやらないと、内部からわき起こる想念や印象に対して知覚

的になるクセがついてきません。この想念観察法を実行する場合は、小型の手帖を一冊用意して、左頁を宇宙の想念、右頁を利己的の想念というふうに分類し、朝起床時から夜の就床時に至るまで、自分の心の中にわき起こる想念を片っぱしから記録していつ、一日の最後に両方を集計します。すると当初はイヤになるほど利己的の想念が多いのに気づいて、ガク然としますが、忍耐強く想念観察を続け利己的な想念が起こるごとにそれを打ち消して、ただちに宇宙の想念に切り替えるように積極的に努力し続けますと、いつのまにか自分の想念内容が宇宙的な性質を帯びたもので占められるようになります。すばらしい心境に達していることに気づきます。つまり心が中立化して知覚力が拡大したわけです。こうなるとテレパシクな印象の感知が容易となり、真のテレパシストになるといっていいのです。

しかし口で理論をとなえるのは簡単ですが、実行は容易ではありません。想念観察などという慣れない仕事を続行しようとすると、かえってひどく混乱することがあります。そのために「想念観察をやる気違ひになる」という噂が流れたこともあります。実際は、低俗な地球の生き方を一挙に宇宙的生き方に切り替えようとするわけですから、内部に混乱が生じたばかりで、気が狂うわけではありません。また「自分の想念を自分で観察できるわけがない」と言う人もありますが、自分で自分の想念を観察できない人は死人も同様です。だいたい心理学勃興の初期における名高いザント、ミ

宇宙		利己	
宇宙と創造主との一体感。自分と全生命との宇宙的な一体性を思い出させるような想念。	他人に対する積極的な親切・愛・奉仕感。	自分と全生命との宇宙的な一体性を思い出さない孤立感。宇宙の英知に対する疑惑。	他人に対する憎しみ・非難・シット・怒り・ゴウマン。
			落ち着かないイライラした感情。不安・恐怖・仕事に対する怠惰感。利己的物欲。過度に官能的刺激を求める。不満。現象の因果関係を考えない。

●かつて日本GAPが頒布していた『想念観察手帖』の見出し部分。(現在は絶版)

ユラーらの内観法というのは一種の想念観察法にはかなりません。

『想念観察』などをやらなくても、常に自分の心を神の方向にむけていけばよいのだ」と言う人もあります。これではだめです。漠然と形而上的なものに対する志向や憧れだけでは、テレパシクな感知力は開発できませんね。やはり想念を記録して分析し、結果を出して反省するという科学的な方法をとらないと進歩するものではありません。数学の勉強と同じで、問題の解法を文章で読んだだけではだめで、自分で計算して答を出して検算しなければ力がつかないと同様です。

また万物との一体感を高めるために樹木を見つめて、その樹木と自分との一体のフィーリングを強めたり、海の水を見つめて海水と自分との一体感を起こしたりします。こうした練習法はアダムスキの『テレパシー』の中に詳述してあります。

——そうすると、テレパシー能力の開発はフィーリングの増強ということになるわけですか。

「そのとおりです。人間が進化すれば感覚が鋭敏となり、退化すれば鈍感になるのは常識的に考えられることです。来世紀にはフィーリングとテレパシーの問題が重要な課題となるでしょうね。

進化した惑星の友好的な人類は、テレパシーで生活しているといわれていますが、これは充分に考えられることです。地球人のなかにもすぐれたテレパシーや遠隔透視力を持つ人がいるのですから。現在は、人間の想念とかフィーリングと

かはほとんど無視されていますが、医学や心理学や精神分析学などがもつと発達すると、現代の医師が患者の体を聴診器で診察するのと同じぐらいに、想念やフィーリングもチェックの対象になるでしょう。

金星人のメイドがいた

フィーリングといえは、ステックリング氏が興味深い話をしてくれました。私が昨年夏にメキシコ市の、もとアダムスキーの高弟だったマリア・クリステイナ・デ・ルエダ夫人の大邸宅を訪問したことは、本誌先号(六十三号)のメキシコ旅行記の中で書きましたが、ア氏はこのマリア夫人とその旦那のルエダ氏に特別親近感を持ち——これもカルマでしょう——、毎年クリスマスにはこの家を訪問して、休暇をすごすことにしていたんです。

ところで、この家の女中さんたちの中に一人の美しい女性がいて、毎日屋内やトイレの掃除などをしたりして働いていたわけです。ところが、なんとこの女性は金星人だったというので、そのことにマリア夫人は最後まで気づかなかつたんだそうです。そして、この女性がもらう給料はそのままにアダムスキーにまわしていたということです。

ルエダ氏もアダムスキーを熱心に支持した方で、大金持ですから、かなり物質的な援助もしたようですが、あるときクリスマスプレゼントとしてアダムスキーに腕時計を贈ったところ、ア氏はそれ

を大切に使用して死ぬまで腕につけていたようですが、後にステックリング氏が米GAP本部のアリス・ウェルズからその時計を贈られて、これを腕につけたまま来日しました。「これはアダムスキー氏の体といっしょに金星や土星へ行ってきた時計ですよ」と言ってみせてくれましたが、かなり古びていましたね。なんでも一日に数分間狂うということでした。こうした話も彼が来日早々いきなり自慢そうに切り出すのではなく、何日かたつてポツンとつぶやくんです。こういうところに彼の人の良さがあらわれていますね。

滞日中、彼ら夫妻から未公開の驚異的な話をずいぶん聞きましたが、それもいきなり思いつきで無造作にペラペラしやべるといふ態度ではなく、ひそかに私の態度や精神の状態などを観察しながら洩らしてよい時期が来るまでジッと待っていて、よし、話そうかと夫妻で合意に達したときにやっと口を開くという具合に私には見受けられました。とにかく夫



●マリア夫人とルエダ氏



●フレッド・ステックリング氏(右)と筆者。1975年11月、米カリフォルニア州パロマー山にて。(スティーブ・ホワイティング氏撮影)

妻の慎重なことの上なく、うわっ調子などところはみじんもありません。二人とも常に内部の想念や印象を観察し、テレパシクな感知力を働かせながら行動しているという様子でしたね」

——ステックリング氏は、ひんばんに

宇宙人とコンタクトしているのですか。「ひんばんかどうかは知りませんが、ときたまコンタクトしているようです。東京の講演会を終えてアメリカへ帰る途中、ハワイへ寄って、ここで三日間の休日です。飛行機がホノ

ルルの空港に着いてからタクシーで一家三人がホテルへむかっていたとき、別なタクシーが走りながら寄り添って来て、運転手が窓をあけて、微笑して手を振りながら挨拶をしたようですが、これもスペース・ブラザーだったと、帰国後、手紙で知らせてきました。これからみますと友好的な宇宙人が地球へ潜入してひそかに仕事についている場合、必ずしも高度な科学機関ばかりではなく、ありふれた労働もやっているようです。一般人の案外身近な所において、気付かれないで働いているのではないのでしょうか」

——じゃ、私が今日乗って来たタクシーの運転手さんも、ひょっとしたら——

「ええ、案外そうかも——(笑)。まあこんな話は一般人には通用しないことでマンガ雑誌の材料ぐらいいにかみなされなんでしょうが、社会の裏面には意外な事実がひそむものなんです。そうしたノンフィクションな驚異的な出来事や現象などを追跡しますと、フィクションにはどうも意欲が起こりません。だから『未知との遭遇』もいまだに見る気がしないんです。

アダムスキーとケネディ

アダムスキーをインチキだ山師だと騒ぐ人がいますが、実際には彼はケネディ大統領の有力なブレーンであったという事実を彼らは知っていません。ハワイトハウスへ自由に出入できるパスポートを所持していて、宇宙問題で重要なアド

バイスを与えていたようです。その他米政界や財界の重要な人物と接触があったらしいのですが、多くは謎に包まれています。私自身はアダムスキーを今世紀最大の偉人の一人とみていますが、ケネディや少数のトップクラスの人々も、そのようにみなしていたという事実を知れば、山師だといって罵倒する人などは、かわいもんです」

——ケネディの暗殺事件は、宇宙問題と関連があるのですか。

「さアて、よくは知りませんが、いろいろ噂があるようです」

——恐ろしい世の中ですね。傑出した進歩的な政治家を、自分たちの利権欲のために消してしまわうなんて。

「いや、恐ろしいというよりも、不完全なのです。この地球は——」

しかしケネディもいまは進歩した良き惑星に生まれかわっているでしょうし、あるいはスペース・プログラムに協力しながら、地球の状態を見守っているかもしれません。おそらくつぶやいているでしょう。「泥沼のような地球でも遠くから見ると美しいなア」と」

——ずいぶん想像力の豊かな方のようにお見受けしますが、あまり想像にふけりすぎると、事実とのけじめがつかなくなりませんか。

「そうですね。狂的なほどの空想は妄想となつて、ありもしないことを事実と思ひ込んだりします。この頃どういうわけか、被害妄想におちいった若いお嬢さん方から悩みを打ち明けられるケースがよくあるんです。一人や二人ではありませ



●故ケネディ大統領 (UPI=サン)

ん。これは明らかに病的なものです、私の想像力は一流作家などに比較すればまだはるかに貧弱です。妄想におちいるほどのものではありません。

しかし想像力というものは現実と未来とをつなぐ「かけ橋」のようなもので、これがないと未来の進歩はあり得ませんからね。どんなすばらしい大発明でも、最初発明者の心中で描かれたイメージが具体化するわけです。

イメージによる実現法

そこで私たちは『イメージによる実現法』と名付けた方法を応用しているんですが、それをお話ししましょうか。たと

えば、あなたが将来すばらしい男性とめぐりあえて、理想的な夫婦生活をすごしたいと思えば、それを実現させる方法です」

——そんなすばらしい方法があるんですか。ぜひお聞きしたいですね。

「簡単なことです。あなたが、望みどおりのすばらしい男性とともに華やかな結婚式をあげて、大勢の人々から祝福されている光景を、テレビでも見ているように鮮明に描いて、『ついに実現した!』と心から喜ぶのです。一回につき五〜六分間、このイメージを強烈に描き、これを一日に二〜三度行なえばいいでしょう。そうすると、いつか思わぬ場所で、イメージに描いたとおりの男性が現れて

自分でびっくりすることに、あとはほとんど拍子に事が運びます。

その他、自分が望む物事や必要物の入手など、何にでも応用できます。重要なのは、『すでに実現してしまつた!』という確信を持って、そのようなイメージを描くことで、実現するかどうかはわからないが、一応やってみようという程度ではだめですね。たとえば自動車がどうしても必要になってきた。これがないと交通が不便で、仕事にならない。なんとかして手にいれたい、と思うときは、自分ですでに車を一台所有して、喜び勇んで運転している光景をはっきりと描くのです。そうすると、何か月かたつた頃、突然、友人か知人が程度の良い車を格安で、しかも分割払いで手放すという話が持ち上がった。その他、有利な条件で購入できるほどの資金ができたというようになるでしょう。

いつとき『信念の魔術』という本が出まわって、やはり希望する物事の実現法として、希望事項を口でとなえたり、紙に書いたりするとよいとか、その他一連の光明思想家も似たような方法を説いています。『必ず実現する!』と口でとなえることは、もちろん、そんな方法をあたまたかバカにして全然やらないよりは、はるかに良いことですが、ただ口でとなえるよりも、心の中に鮮明なイメージを描くことがもっと効果的です。

心にイメージを描くとなぜ実現するのか、その科学的な理由は不明ですが、いろいろの実例があることから一種の奇跡発生法として、認められてもよいでしょう。

う」

——すばらしいことですね。でも少し疑問があります。望ましい物事を実現させるのに、すべてにイメージを描く方法を応用するということになる、努力をしないで無気力になる傾向が起るんじゃないでしょうか。

「そこが問題です。イメージを描く本人の心がまあと、この方法の意義の解釈にかかっていますね。悪事にも応用できるんですから——つまり描かれたイメージを実現の方向にむかって推進する内部の宇宙的力は、ちょうど電力のようなもので、それを扱う人の知性によって、その電力が家庭で生かされれば、誤った取り扱いにより感電死したり大ケガもありますが、この場合、電力そのものに罪はありません。同様に人間を生かす宇宙的力は、本人がその力を善事に応用しようが悪事に行使しようが、いつい干渉はしないんです。したがって肉体の体力も殺人に用いられることもあるわけです。観点を変えて考えれば、だからこそ万物の創造主はおそろしく公平であるともいえますね。つまり神が殺人者を作ったのではなくて、人体という超精密な生き物に英知ある力を吹き込んで生かしているだけのことで、この力を善悪いずれに用いるかは人間の自由です。そのような自由を与えられているからこそ、人間には進歩や退歩もあるわけです。

話をもっとしますと、望ましい物事を実現させようとしてイメージを描いても、どうしても実現しないという場合は、なんらかのカルマにより実現が阻止

されているのですから、あっさりときき
らめるほうがよいのです」

——鮮明なイメージを描くといっても
まだ実現しない物のイメージを描くのは
困難ではありませんか。

「そんなことはありません。私自身もイ
メージ法を少なからず応用しています
が、大体に描いたとおりの物事が実現し
ます。少しは違う物事が実現すること
もありますが、それはそれでよいことな
んです。

多くの人にイメージ法（イメージを描
いて物事を実現させる方法の略称）を伝
えるんですが、真剣に行なう人は少ない
——、というよりもうまくできないいら
しうんですね。でもなかには実行して、す
ばらしい成果あげたという人たちもあ
ります。

地球人の大きな欠陥の一つは、心の中
に鮮明なイメージを描く能力がとぼしい
ことだといわれています。これはテレパ
シーの送信能力開発に障害となります。
とにかく、心中にイメージを鮮明に描く
こと、わき起こる想念や印象を的確に知
覚すること。こうした能力を地球人はも
つともっと身につける必要があるよう
ですね」

宇宙船の建造が急務

——いろいろと興味深いお話を聞か
せていただきましたが、UFO問題の重要
性について——。

「そうですね。はじめにもお話ししま
したように、UFO問題は日本の風土では

急速に伸びないだろうと思うんですが、
国連でも取り上げられるようになりまし
たし、今後UFOが世界中で出現し続け
れば、緩慢ながらも人類が認めるよう
になるでしょう。というところは地球以外
の天体に人間が住む可能性を認識するよ
うになることですから、目が開けてきて、
価値観なども大きく変化するだろうと思
います。

問題は、なんといっても地球人自身が
巨大な有人宇宙船を開発して、別な惑星
へ行き、すごい文明や、高度に発達した
社会システムなどを見て、腰を抜かさ
んばかりに驚き、地球がいかに低開発星
であったかということに気づいて、改革に
とりかかるとでしようね。難問が山積
していることではしうが、とにかく実際
に現地を見るといことが何よりも大切
だと思えます。私なども世界の各地を
実際に自分の目で見て歩いて、認識を
あらためたり反省したりしたことが多く
あります」

——地球人が宇宙船に乗って、他の惑
星を訪れる日がくるでしょうか。

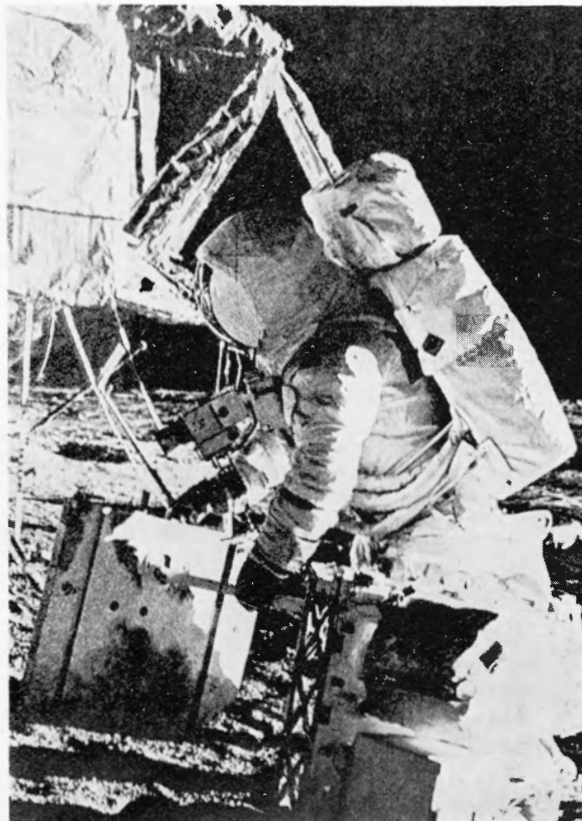
「必ず来ると思います。来世紀にはい
ればね。そして高度に進化した惑星との
文化交流により、地球も飛躍的に進歩
してしうが、その前には大戦争が
発生して地球はいったん荒廃し、人類の
多くが消滅するかもしれないね」

——エドガー・ケーシーの言うような
日本沈没とか、世界の自然の大変動とい
うようなものは起こらないでしうか。
「さあ、それは私にはわかりませんが、
どうも戦争のほうが発生の可能性がある

ような気がするんです。間違っていれば
いいんですが——。人口増加、食糧不
足、エネルギー不足が続けば、どうして
も物理的に戦争にならざるを得ないで
しうね。戦争はイヤだ、憲法で放棄した
んだと日本人だけがいくら騒いでみても
すさまじい大戦が始まれば、そんな騒ぎ
など吹き飛ばされるでしょう」

——そうすると、戦争を起こさないよ
うな方法をまず講じることが——。

「そうですね。第三次大戦になれば全面核
戦争になることは必至で、地球上の大部
分は壊滅し、ひどいことになるでしう
う。だから地球人は必死になって戦争発
生の防止活動をする必要があるでしう
ね。私が聞いたところでは、六〇年代初



期のキューバ問題で米ソ間がこじれて、
あわや第三次大戦が発生しかかった折
に、スペース・ブラザーズが活躍して、
これを阻止したということです。おそら
くスペース・ブラザーズは大戦防止のた
めに各地で相当な活動を続けているの
でしうね。しかしそれにも限度があると
思いますよ。自分のことは自分で始末を
つけるというのが宇宙の法則にのっと
った原則ですから、大戦防止はなんと
いっても地球人自身の手で行なうべき
でしう」

日本人は権威に弱い

——日本の未来についてはどうでしう

うか。

「私には全く予測できませんが、アダムスキーがニュージーランドへ講演旅行に行った際、当時ニュージーランドGAPをやっていたヘンク・ヒンフェラーという人から来た連絡によりまして、『日本人は特殊なカルマを持つ民族だ』と語ったということです。個人のカルマと同様に民族にもカルマがあることはユダヤ人の例でもわかりますが、日本人の特殊なカルマというのが、良さものなのか、望ましくないものなのか、よくわかりません。

白人社会では日本人は血に飢えた民族だと思われているようですが、これは明治以降の度重なる侵略戦争と太平洋戦争などの一連の武力闘争、戦後の経済攻勢による脅威などで、そのような印象を与えたのでしょう。しかし私は、日本人は先天的に平和を愛する民族だと思えます。大昔からおおらかな、楽天的な民族だったという気がしますね。日本人が民族の良きカルマを持っているとすれば、それを生かして世界に貢献するのはこれからではないでしょうか。

ただ、日本人による戦争とか経済攻勢とかは、大体に権威に対する服従主義から発生したものだと思えます。作家の五味川純平氏でしたか——違っているかもしれませんが——『日本人は救いたいほど権威に弱い』と書いておられたのを読んだことがあります。あれほどの大戦争をおっぼじめたのも、権威者から与えられる命令に、おそろしいほど従順に服従したからで、戦後の驚異的経済復

興も、企業体経営者の「権威」に対する従業員の文句なしの服従精神が大きく影響していると思えますね。ドイツ人にも似たような面があつて、そのゆえにドイツ人は戦争も強いし戦後の経済復興も驚異的な成果をあげたのでしようね。私が見た限り、西ドイツの都市や農場などの完璧な機能性や合理性は、ヨーロッパ随一だと思いますよ。あれほど理性的なドイツ人が、なぜ、ひとにぎりのナチに振りまわされて悲惨な結果を招いたかという点も、権威の問題を考えれば、うなずけることです。ヒトラーという一人間の力に圧倒されたのではなく、大衆の上に位置した「権威」に屈したと言えるんじゃないでしょうか。

でも日本でも労働運動などが発達して、労働者側は組合活動により、経営側をゆさぶったりするわけですが、それでも資本側の権威に弱いんですか。

「労働争議」というのは別問題だと思います。しかし激烈な闘争を展開する労組員でも、一社員として社長の前に出れば、はたで見るのが気の毒なぐらいにオドオドするのがあります。やはり「社長」という権威には弱いんです。

ただしこれは決して職場で上司に反抗せよという意味ではありません。労働者であっても主体性の確立という問題を認識して、どんな職種にしても世の中に役立つと思えば、プライドをもって堂々と働けばよいのです。その点、体制への帰属意識が強いとはいってもドイツ人のほうが一枚上でしょうね。

それは日本人の団体に対する帰属

意識のあらわれではないでしょうか。

「そうです。たしかに帰属意識です。それは権威に対する帰属でもあるんです。でも時代は確実に推移していますし、若い人たちの考え方も変化してきていますから権威に対する弱さも次第に薄らいで行くでしょう」

アダムスキー哲学は良き運命を作る

——アダムスキーは将来、一般人から認められるでしょうか。

「さあ、どうでしょうか。なにぶんアダムスキーの体験はかなり古いことで、彼が死んでも十三年たっていますからね。次第に人々の記憶から忘れられるかもしれません。」

しかし、来世紀にでもなつて、別な惑星の人類が公然と地球を訪れるようになれば、その頃埋もれていたアダムスキーの名も脚光を浴びるようになるでしょうね。『やはり彼の言っていたことは正しかったのだ』と。ただし私たちはその時期が来るのを見るために促進活動をやっているのではなくて、現在の瞬間瞬間に良き想念を発し、良き行為をなして、自分自身の良きカルマを作り、宇宙的な哲学と生き方を少しでも広めようとしていくだけです。事実、長くアダムスキー哲学を熱心に研究して実践している人は、運命的に良いことにはなつても、悪くはならないんです。これは私が観察して断言できます」

——アダムスキー哲学は人間の生活を

●月の裏側のUF0基地(会員・相馬俊光氏画)



生かす哲学だというわけですか。

「そのとおり。単なる理論のこねまわしではありませんね。特に重要なのは彼の『生命の科学』の第一課と第九課で、これを実践すれば、どこへでも行きたい所へ行けるようになる、死の直前にステックリング氏に語ったということですから。つまり進歩した惑星に生まれ変わること、可能になるという意味でしょうね」

——貴重なお話をいろいろと有難うございました。

各地支部総会、盛況!!

熊本支部総会

二月十九日、市内常通寺御山本堂にて一時より六時まで。出席者約三十名。

今回の御講演、ほんとにありがたうございました。おかげさまで私たちスタッフの不手際とは別に、実りある大会で終了することが出来ました。これは全て先生のあたたかい善意と皆様の熱意の結果だと感じ、心から感謝しております。

また今回は先生の時間が少なく、熊本の名所のひとつも御案内できなかった事は非常に残念でした。その意味からも来年も是非来ていただき、今度こそ実現させて下さい。

(園村のぶあき記)

二月十九日早朝六時に自宅を出発。七時三十分発全日空機で熊本に向かう。機体は微動だにしない。九時頃熊本着。津野田氏その他の方々の出迎えを受けて、ただちに常通寺御山へ車で行く。庫裏で休憩中、熊本の昔の高名な写真家、富重利平翁(大正初期に他界)が幕末から明治の初期にかけて撮影された作品集を見せてもらい、その鮮明なのに一驚を喫した。全紙判の巨大なカメラを駆使して写

し出された加藤清正築造のオリジナル熊本城(現在のものはコンクリート製)の大写真集は圧倒的で、写真は芸術ではなく記録なのだという編者の持論が裏付けられたような気がして、これを見ただけでも熊本へ来た甲斐があった。

一時より本堂で総会が始まり、昨年のアメリカ・メキシコ旅行のスライドを映写後、活発な質疑応答が展開した。非会員の方から奇妙な質問や意見も出たが、敵意にもかかわらず熱気のある総会が続ぎ、五時すぎに無事終了。夕方六時半より庫裏の別室で夕食会を開催。ここでも更に熱心な討論が続けられた。お世話になった関係者や出席者各位に厚く御礼を申し上げます。

(編者)



仙台支部総会

三月十九日、西公園内仙台市民会館。一時より五時まで。出席者約四十名。

当日はあいにく朝から雪が降り、午後には雨に変わる悪天候になりました。そうしたなかでも続々と参会者がつめかけ午後一時十分、司会者の田中の開会の挨拶によって会は始まりました。

続いて久保田主宰者の挨拶——日本GAPはブラザーズから注目されている、と強調し、我々を励まされました。

次にスライド上映に移り、昨夏行なわれた「中米宇宙考古学遺跡の旅」のカラー写真が急テンポのラテンアメリカ音楽をバックに映し出されました。今なお不可解な形象文字、ピラミッドなど数々の遺跡を残す中米、かつてアダムスキーが住んでいたペロマーガードンズ等、興味深い写真が鮮明に映写されました。

十分間の休憩後、全員の記念撮影、質疑応答へと進行し、遠方からの多数の参加者の質問が相次ぎ、すばらしい雰囲気の中に、全員の拍手をもって四時間半の総会の幕を閉じました。

会の準備、進行に不備な点が多く、皆様には申し訳ありません。総会後は希望者による夕食会が開催され、ここでは会員間の和気あいあいたる交流がもたれました。

久保田主宰者は翌朝八時二十分の特急で帰京され、見送りにには仙台支部の常連や山形支部の方々など十数名が来て下さ



いました。

(笠原弘可記)

仙台支部の第一回総会なので緊張して出席したが、会場は実になごやかで、また真剣な雰囲気満ちていた。旧知のなつかしい方々の顔も見える。慣れているとはいえない全力投球をやらねばいけない。単なる求道談議や円盤目撃談の会合ではなく、はるかに高次元な宇宙哲学の熱心な討論が続いた。夜のパーティーも楽しかった。皆様は心から感謝するとともに奉仕の決意を新たにされた。

翌日は主催の方々のお好意により、仙

台市内の名所旧跡を案内する予定だったそうであるが、この日編者は松江市へ急行する用事があったために、残念ながら再会を約して朝の列車で帰京の途について。駅には十二名の方が見送りに来られなかに都合がわるくて前日の総会に出席できなかった山形県上山市の漆山晃治氏がわざわざ見えて全く恐縮してしまつた。赤間氏のお子さんの頭をなでたりするうちに時間が来た。列車の出発間際に強烈な印象が内部からわき起こつたが、確証を得る余裕はなく、汽車は出てしまつた。
(編者)



● 3月20日朝、仙台駅にて。右端が漆山氏。

新潟支部総会

「今年も久保田先生を新潟に！」という強い要望で滑り出した支部総会でした。様々な準備が進められ、土壇場にきて国鉄のストで頭を痛めたりしましたが、終わってみて、今年もやってよかつたという気持ちで満たされました。

当日は支部のメンバー以外に石川・仙台・千葉などから多数の方々への参加があり、総勢で二十二名に達しました。特に千葉方面からは団体で多くの方々から来ていただき感謝の気持ち一杯です。

会は先生のアメリカ・メキシコ旅行のスライド上映から始まり、カラーの大画面に展開する遺跡類はすばらしい迫力で、バックの音楽も雰囲気盛り立てました。次はステックリング夫妻の滞在記録。イングリッドさんの美貌に目を奪われた(?) 映写係が画面を次々に進めな

い一幕も。その後の座談会は、様々な質問、話題が次から次へと間断なく出され実に活発なものでした。ここので先生のお話にめつたに聞けない内容もあり、参加者にとって最大のプレゼントだったでしょう。適度にアルコールのまわつた夕食会のときは、さらにリラックスした空気となり、時折先生の有益なお話をまじえながら、笑いの絶えない宴でした。その日の夜は十一時まで場所を変えて談笑が続きました。

翌朝は先生をご案内してのドライブだったので、天候が奇跡的(?) に回

復して、快晴の下で、日本海・佐渡・新潟平野を一望するすばらしいものでした。昨年もそうでしたが、久保田先生は「晴れ男」なのでしょう。無事に総会を終え、遠路を駆けつけて下さった方々をはじめ、積極的に運営に協力してくれた支部メンバーに深謝致します。本当に後味のよい有意義な会でした。
(足立亘宏記)



新潟へ行くのは二度目だったが、前回同様すばらしい雰囲気だった。今回は仙台支部総会のあとでもあり、参加者は約二十名と少なめな総会だったが、それだけに密度も高く、この種の集まりでは最高のものであったと思う。「集まった甲



斐があつた」という意義深いものにするために編者も極力神経を使ったが、至らぬ点も多々あつたことだろう。お詫びする次第。翌日は数名の方々のご案内で新潟県のパロマー山ともいふべき弥彦山へドライブした。眺望絶佳、快晴の陽光のもとで清純な空気を思いきり吸う。山頂でハンググライダー見学というおまけまでついて、いうことなし。暑くて汗ばむほどで『お天道さまも少しは手加減して下さらなくちゃ』とこぼすほどだった。帰途は長岡へ出てここから同行の山木、菊地両氏と共に汽車で帰京した。世話役の足立、平山、石川、佐々木の各氏や遠路はるばるご参加下さった方々に厚くお礼を申し上げます。
(編者)



★この眼で見よう 謎と神秘に満ちた雄大壮麗な
エジプト・ギリシア・ローマの
遺跡群と、奇跡のルート上の聖泉を!

企画 第2回 エジプト宇宙考古学遺跡の旅

行こう! 古代の神々の国へ!

大成功を収めた第1回の中米宇宙考古学遺跡の旅に引き続き、今度はエジプトを主体にまたもすばらしいツアーを企画しました。参加者多数が予想されますので、早目にお申し込み下さい。(定員50名)

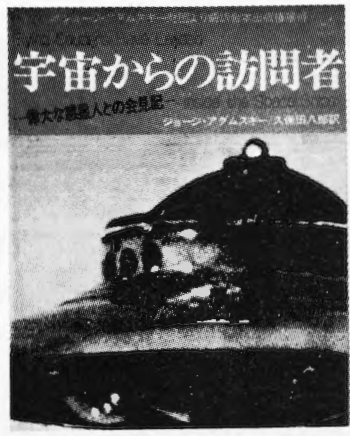
- 期間 昭和53年8月12日→26日(2週間)
- 費用 50万円弱(航空運賃・朝食付ホテル代・その他の費用を含む)。12ヵ月、24ヵ月分割払いも可
- 申込先 〒110 東京都台東区上野5-1-6、ヤマトビル
ユニバース出版社ツアー係(140円切手同封お申し込みの方に詳細説明書をお送りします)
- 主要見学地
〈フランス〉パリ市内、ルーブル美術館、ノートルダム寺院、モンマルトルの丘、サクレクール寺院、凱旋門、その他。
〈パリより列車でルート行き〉洞窟・聖泉・大聖堂。〈列車でヌベール行き〉サンジルダール修道院のベルナデットの遺体。〈イタリア〉ローマ市内、バンテオン神殿、サンピエトロ寺院、バチカン宮殿、その他。ナポリ市内、ポンペイ遺跡。〈ギリシア〉アテネ市内、アクロポリスのアテナ、ニケ、バルテノンの各神殿、ゼウス神殿、コリント遺跡、ミケネ遺跡。〈エジプト〉カイロ市内、エジプト博物館、ギゼーの3大ピラミッド、スフィンクス、サッカー遺跡、ルクソール神殿(これのみオプショナル・ツアー)。その他。久保田八郎(ユニバース出版社社長・UFOとミステリー研究家)
ユニバース出版社 株式会社トラベル日本
国際アカデミック・センター **ユニバース出版社**
ギリシア政府観光局
- 同行者
- 共催
- 企画
- 協力



絶賛発売中!
定価 **1300**円
(〒160)

|| 偉大な惑星人との会見記 ||

●空飛ぶ円盤は実在する! 遠い惑星から、偉大な進化をとげた人類が、大宇宙船を駆つて地球の救援に飛来……壮大な宇宙空間の大スベクタフルと驚異的事実をつたえた本書は、まさに20世紀最大のドキュメントだ!



宇宙からの訪問者

米ジョージ・アダムスキー財団より翻訳合本出版権獲得!

ジョージ・アダムスキー / 著

久保田八郎 / 訳

●「空飛ぶ円盤実見記」「空飛ぶ円盤同乗記」として名高い二点の記録書をアダムスキー研究家として著名な久保田八郎が流麗平易な訳文により全面的に改訳、「実見記」のうちアダムスキーの手記と「同乗記」全文を合本として事件の理解を容易ならしめ、また未発表写真を含め50点以上の写真・図解を一挙掲載した決定版である!

ユニバース出版社
〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
☎832-1341~44 振替・東京1-119478
●書店にない場合は直接小社までご注文ください。

会員の声

テレパシーは絶対に必要

静岡県掛川市 石山鉄雄

私がアダムスキーを知ったのは、高校三年の終り頃、友人にすめられて『UFO同乗記』を読んだのが最初でした。その本によっていろいろな事を教えられ物の見方も大きく変化しました。そして、現代社会における技術・産業における段階と精神面における段階の格差があまりにも大きくなりすぎているということも知らされたのです。

イギリスの歴史学者アノルド・トインビーの言うところでは、人間の進歩の最終的な目的は高等宗教というか、いわゆる高い次元の思想への発達にあり文明というのはその手段にすぎないと語っています。ですから、人間は精神的にどんどん進歩してゆかなければなりません。しかし、地球の人々は技術面においてはどんどん進歩し、特に近年の産業革命以後においてはいよいよ著しく発展してきていますが、人間の精神面をみてみると何千年も前の偉い哲学者が説いた思想を今の時代にもってきてもやはり、私達よりずっと高い段階の思想であり、人間の精神面はほとんど進歩していないのがわかります。こういった精神面の低さというものは私達の周囲をみても物事の理解力の無さなどからわかると思います。例えば、ある父親の息子が外見

投稿歓迎。「会員の声」宛としてタテ書きで不用紙を使用し、字数は自由。

的に変わった格好をするような友人を家に連れて来たといいます。そして父親はその息子の友人を見て彼を批判します。しかし息子はその友人を理解しているので父親に「こいつは良い奴だ」と言います。結局それは父親が息子の友人に対する理解の無い自分自身に対して批判しているのです。だからこういった例と同じ様に私達はあらゆる人の行動や思想などを最終的に批判することはできないと思います。よく多くの人はハイジャックの犯人などに対して「あんな野郎はブツ殺してしまえばいいんだ」と言います。しかしハイジャックを生み出した社会的背景というものには、私達の住んでいる社会そのものにあるのであってハイジャックの犯人はまったく異質な社会で生まれたのではないのです。だからハイジャックを批判することはハイジャックを生み出した社会である私達が現在生活している社会と私達自身を批判していることになるのではないのでしょうか。しかし、ハイジャックというのは決して正しいものではないのでやはりこれは人間の精神面の低さを物語っていると思います。

人間の精神面を高めるにはいったいどうしたらよいのでしょうか。ある人に私から一方的にアダムスキー哲学とかいろいろの思想を説教だ「いいか、こういう風に考えてください」という様なやり方は絶対にだめだと思えます。父親がグレてしまった息子

に対して怒って物事を強制させたりするとその息子はもっとグレしてしまうのと同じ様な事だと思っただけです。だから強制ということとはほとんど無意味というか、発展性の無いものだと思えます。もう一度親の例を出せば親が子供に勉強やれ、塾へ行けなどと言ってもその子供の学力はそれほど伸びるものではないし、それは逆に、その子供自身から勉強をやる気をもって「勉強ばかりやらずにたまには遊びなさい」と親から言われるくらいになれば、その子供はずっと伸びるのです。だから、自分自身で悟って自分からいろいろな行動を起こす様な自主性をもつようにしむけなければならぬと思います。従って警察官は暴走族に対して武力や強制をもって接触するのではなく「オレ達はどうかんなことをしななければならぬのか」という風に考えるような方向に武力や強制無しで暴走族をもってゆかなければなりません。だから、それらは警察官だけでなく社会全体、個人個人の家族、私達一人一人からそういう方向にさせてゆかなければならぬと思います。テレビで報道される事件が、それが北海道で起きた事であっても沖縄の人はそのことを笑って見ることができないし、その北海道の事件の背景は沖縄の人の生活の中にもあるのです。これは大げさな事ではないと思います。

もう一つ最近考えている事は、物事について語るという事が最終的にどうなるかという事です。例えば、私は音楽が好きでジャズとかクロスオーバーであるとかソフト&メロウとかいう風に私の好きな音楽は分類

されていますが、そういった分類するという事が本来の音楽のもっている自由な創造力を失わせてしまうのだと思うのです。音楽というのは本来自由な広がりをもったもので、聞き手にもいろいろな創造力をわかれます。しかしそこで言葉をもってその音楽を分類し解説するような事によって、その音楽に一つの枠を作ってしまうと本来の自由を失わせてしまっているように思います。一つ一つの固定概念をつくらせてしまえば音楽というものを一つのみきまりきったものにしてしまうのです。だから音楽を聞く場合、その音楽に関する分類や評論などすべて考えずにただ聞くという姿勢が一番良いと思います。レコードを買った場合ジャケットに解説がでていますが、その解説を洗ってしまつたらそのレコードを聞く聞き手はその音楽を本当に鑑賞することはできなくなってしまうのではないかと思います。それはすべてその芸術に対していえる事だと思えます。従って、言葉というものがすべてその物事に固定概念をつくってしまう原因だとも思うようになってきました。だから、アダムスキーの説いた思想を『アダムスキー哲学』と呼んで本などに文字でもって書かれてしまつたらアダムスキー哲学の本来のものが多少は狭められているのではないかと思います。だから、言葉あるいは文字というのは最終的にはなんにもならなくなってしまうのではないかと思うようになってきました。

意思の伝達の手段としても本当の人間個人個人の思っている考えの広さ自由さというものが口から出た言葉としてその瞬間に自由な広がりを失

なってしまうのだと思うのです。だから、なんにもしゃべらないのが良いのですがそれでは他人の意思がぜんぜんわからなくなってしまうことになるので何か一人一人の考えの広さや自由さを失わずに伝えられるものが必要になってくると思います。それはやはりテレパシーしかないと思います。テレパシーは人間の精神的な進歩の上で絶対に必要なので、絶対にマスターしておかなければならないのだと思います。

皆様に心から感謝します

京都市 木村幸夫

私、六三号ニューズレターに安藤澄雄さんの原稿にのせていただいた木村幸夫です。このたびGAPの大切な機関紙に私事を載せて頂き、誠に申しわけなく思っています。本当に感謝しています。GAP会員の方々にお見舞いや激励のお手紙を頂き本当に恐縮しております。

月例会に出席していないのが会員の方々と直接会った事はなかったのですが、実にすばらしい人達です。私なんか足元にも近づけません。福知山から来て下さいました仲間秀樹さん、病氣に良いと持ってきて頂いた(カンズメ)の栄養食。京都市の桑原治さん、その他激励のお手紙、本などを送って下さった方々など本当にうれしくて感激致しました。私の姉(GAP会員ではありませんが)は「世の中にこんなすばらしい人達がいるなんて」といって涙を流していました。母も大変喜んでくれました。家中みんなが「この悪い人の多い世の中に、こんな人間性のみちあ

ふれた人がいるなんて信じられな
い」と言っていました。先生ありが
とうございました。

私の病気の方も大変良くなって今
では仕事もしています。病気が長く
なつたのは、神経的な不安や恐怖も
手伝っていたのです。自分の想念を
客観視して今迄想念を何とか楽しい
希望のある宇宙的な物に転換させる
事に努力して来ました。そのせいか
病気の方もまだ完治とまではいきま
せんが、大分良くなってまいりまし
た。今考えると病気になった事もカ
ルマ的な物を感じます。すばらしい
G・アダムスキー哲学を知り得た事
も病気になっていたので、普通の
健康な体なら、きっと目にはいつ
いていても、本迄読んではいなかつた
と思います。私に創造主のすばらし
い支援があったものと信じるしだい
です。

亀田一弘先生に透視をしてもらっ
たところでは今年の春か秋に殆ど治
るとの事です。早く治して一日も早
く月例会に出席し、GAP活動を前
進させる努力する事がみなさん方や
先生の熱い友情と御慈悲にお答えす
る事だと確信しております。
このたびの事本当にありがとうございました。
心から感謝致します。
さようなら。

高梨和明氏への御礼

佐賀県 平野三郎

第六三号のGAPニューズレター
を有難うございました。さっそく娘
より読んでもらいました。フレッド
・ステックリング氏を御迎えしての
講演は大成功でおめでとうございま

した。それから編集後記に私に対す
る先生の御心遣いに胸が一杯です。
あつて御礼申し上げます。本当に有
難うございました。さっそく中伊豆
温泉病院の高梨和明さんから「生命
の科学」講座並びに私に対するメッ
セージの長時間にわたる録音テープ
を御送り下さいました。今まで娘の
ひまに「生命の科学」講座を読んで
もらっていましたが、これから先録
音テープでおさらりする事ができ大
変勉強になります。私も目的に達成
する様懸命に努力至しております。

これから先もなにぞ御指導のほど
をよろしく御願ひ致します。本当に
有難うござい致します。本当に
れぐれも御身体を大切にして下さい
ます様御願ひ致します。(二伸、娘
絹子の代筆にて失礼させていただきます
す)

私は創造主の振動と一体

東京都 石川哲舟

早春の気、未だ充実せざるも春の
訪れが確実に感じられる今日この頃
です。

久保田先生お元気のことと存じま
す。先般先生の賀状に接し、はずか
しいやらうれしいやらで勇氣元氣百
倍でした。妻にも笑われそうな変貌
ぶりだったようです。早速御返事を
と思ひながらもついに二月半はにも
近づきました。ずいぶんと御無沙汰
をさし上げたのは昭和四十二、三年
頃だったように記憶しております。
さて、現在私は通産省内の工業技術
院におりまして、夜間の東京理科大
学(東京物理学校・旧)化学科に通

い出しまして早や三年が過ぎ本年四
月をもって四年生となります。入学
は昭和五十年で頂度長男智一が生ま
れた年です。この間ずいぶんと苦し
い日々がありました(自分では)、
落第の洗礼を受けず、人の……で角
力(相撲)をとりながらなんと四年
年生に及第できそうです。先生の賀
状に接したのは試験準備の真最中で
した。先日やつと後期試験も終了
し、ほつと一息した次第です。もつ
とも試験には合格したいが読みたい
本は宇宙科学の本ばかりでして、ど
うも昔からこの悪癖は直らないばか
りか益々増幅されていくようです。

結婚して二児の父となり、三十三才
で入学し、しかも理科大でしたので
落第の恐怖で一年生から二年生に及
第した年は血圧が百五十を越えたよ
うです。この入学の年は妻が智一の
切迫流産の危機により入院をくり返
し、長女裕子は二才にして静岡の母
に預けられたりで、私が学校に通い
出すと同時に災難みたいなことが一
斉に起きました。しかし切り抜ける
ことができたのも有形無形の人々の
助力に依つているものも深い想ひを
いたす昨今です。理科大に行けたの
もめぐり会わせだったようです。今
年は少し楽になると思ひます。例会
に出席できる日を楽しみにしていま
す。私のことをどのようにでも引用
していただいてもけっこうです。た
だし、決して聖人君子にはならない
と思ひますが……念のため!

最近ほめつぎりなきけないですが
福沢翁の言葉に依るようになってし
まいました。先生はいかがですか。
人の上に人をつくらず人の下に……
あの日は本当に楽しく結婚式であり
ました。結婚から考えてみますと、
実にけつさくなことを思い出しま
す。妻が長女出産で北海道に帰つて
なかなか帰京しないので、古本屋で
春本の類をあさっていますとそこで
みつけたのが霞ヶ関書房の「ヒマラ
ヤ聖者の生活探求」ペアー・D・T・
スポールディング著一巻く三巻でし
た。何気なく開いて読み出して以来
最近でも時に読み返すなど私の実質
に影響を与えた本でした。これは、
先生の訳本類と共通する内容だと私
はみております。アダムスキーの宇
宙科学と一致するものと、なまじき
ながら実感しています。そして更に
竜王文庫の三浦氏の著作を読み、こ
れも宇宙科学であると実感していま
す。

私も久保田先生に深く感謝してい
ることがあります。先生はアダムス
キーの「空飛ぶ円盤同乗記」でキリ
スト教的な訳語を避けられたように
聞いています。もし本当ならば先生
の判断は多くの人々をこの一事によ
つて示される考え方で実際と切り離
し宇宙科学へと結びつけ、持続させ
たのではないかとつくづく思うので
す。訳本の中に宗教的な霊的な訳語
が使用されていたなら、あの当時私
は私の幼稚な狭い心できつと奇異な
眼でしか円盤問題を取り扱わなかつ
たと思ひます。このことは、現在で
も円盤問題に参入しようとする新規
の人々についていえることではない
かと思ひます。私にこころまでもア
ダムスキーや宇宙科学を心の中に抱か
せつづけている何かは正しい科学と
しての姿であり、それへの憧れであ
ります。その理想の実現へひた向き
な行動力は、宗教でもなければ経済

でもありません。私は彼等のいろ
の子であり、私達はきつと彼等と同
等以上に宇宙を駆けめぐることがで
きるであろうと思うからです。清浄
な自然に満ちた天体、地球に平和が
満ち人々が創造者と共に歩む日を願
っているのです。自然は無言で物語
っています。我々が心をしずめて聞
かないだけです。我々は宇宙の中の
人間であり彼等もまた我々と同じ人
々です。我々は完全であるに不完
全だと妄想しているにすぎないので
す。今の習慣を思い切つて放棄でき
ないでいるのです。

私は沼津工高時代原の白隠禪師に
深く想いをよせました。今も変わり
ありませんが、師は夜舟閑話や坐禪
和賛で衆生本来仏なりとか気海丹田
これ我が本来の面目とか、己身の弥
陀……弥陀何の法をかく……とい
つたように既に人は生まれながらに
して仏であり神と一体であり創造者
であること完全であることを唱えて
いるように思ひます。当時はただ解
說的にしか理解できませんでしたが、
が、昨今やつと統一が私の内におい
てなまじつとあるようです。科学も
宗教も……すべてが一体であつて精
密な愛の科学であります。科学だけ
では決して人は幸福にはなれません
まい。なぜなら一時は発達しても人の
心の方向が誤るときは、やがては混
乱が生じ、物質とその中にある真の
本質とを分離してしまい、物質とし
て我々の感官で捕えられる範囲の対
象振動(波動)領域のみが、人間の
住む宇宙なりとして狭い偏狂者とな
つて、妄想者、一種の気違い状態に
自らを落とししてしまふからです。
これぞまさしく落第でありましよ

でもありません。私は彼等のいろ
の子であり、私達はきつと彼等と同
等以上に宇宙を駆けめぐることがで
きるであろうと思うからです。清浄
な自然に満ちた天体、地球に平和が
満ち人々が創造者と共に歩む日を願
っているのです。自然は無言で物語
っています。我々が心をしずめて聞
かないだけです。我々は宇宙の中の
人間であり彼等もまた我々と同じ人
々です。我々は完全であるに不完
全だと妄想しているにすぎないので
す。今の習慣を思い切つて放棄でき
ないでいるのです。

私は沼津工高時代原の白隠禪師に
深く想いをよせました。今も変わり
ありませんが、師は夜舟閑話や坐禪
和賛で衆生本来仏なりとか気海丹田
これ我が本来の面目とか、己身の弥
陀……弥陀何の法をかく……とい
つたように既に人は生まれながらに
して仏であり神と一体であり創造者
であること完全であることを唱えて
いるように思ひます。当時はただ解
說的にしか理解できませんでしたが、
が、昨今やつと統一が私の内におい
てなまじつとあるようです。科学も
宗教も……すべてが一体であつて精
密な愛の科学であります。科学だけ
では決して人は幸福にはなれません
まい。なぜなら一時は発達しても人の
心の方向が誤るときは、やがては混
乱が生じ、物質とその中にある真の
本質とを分離してしまい、物質とし
て我々の感官で捕えられる範囲の対
象振動(波動)領域のみが、人間の
住む宇宙なりとして狭い偏狂者とな
つて、妄想者、一種の気違い状態に
自らを落とししてしまふからです。
これぞまさしく落第でありましよ

う。宇宙の学校は広く深い。地球の星というこの学校内にあって私は現在仕事に就き、また地球科学を学びながら宇宙科学やその創造者の高き振動に立って洞察をなそうと始めています。

私はアダムスキー(久保田先生)、ペアー・T・スポールディング、大師↓神↑三浦氏……の系統などからずいぶん多くの幸せを得させていただきました。すべては至高者のために、神の元に……人は自らの力をもって振動を高めて飛ぶ日がまいります。宇宙機をかりずにやがては自らの肉体を宇宙機となし、かけぬぐるでしょう。むしろ私達は自己の完全さを現わす修練をこそ大切にすべきであります。宇宙機は必ずや自然に設計され得るでしょう。我々の心が広がれば宇宙の法が自らと一体となるとき、声なき声は語り我々の耳に聞こえるようになるでしょう。テレパシーは益々ひろかれ極小の原子から極大の宇宙の島々からの言葉を通信するでしょう。それには先生のあのテレパシーの想念観察こそ最良の学問であります。あれほど徹底して瞬間を生きるすべはないでしょう。一瞬は無限に通ずるように思っています。この一瞬一瞬こそ生命であります。そして宇宙科学、宇宙生活であります。どんなに汚れた中にあって創造者の振動(波動)と一体であるが故に私は今一瞬一瞬生きられている生かされているのであります。故に、私はこの私を構成している力と一体であります。この力は確かに存在しており、私は死んでいない、私は分解しておらず、私は今肉体をもち、心をもち、創造者の力を

もち、高い振動から低い振動である肉体という(液体と固体と気体……)ものをまとっている。肉体は低振動のものであり、心や精神というものは高い振動領域の分野の存在であり、肉体も精神も振動(波動)という面でもらえる限り統一されるのであります。即ち物質も心も影と光であり表裏であります。光という領域でみればかぎり、光も影も一体のものでありまます。振動という力の源がすべてあまねく存在するならば物質と精神は、低振動→高振動として統一されるのが私に実感されたのです。物質もエネルギーも実体の側面にすぎないとアダムスキーの宇宙人は述べていました。このことが私には理解できなかつたのですが、昨今この振動によってやっとなるようになりまし。その他多くの有益な書物に接しています。やがては私の内に熟成されてきつと多くの人々に役立てる日々がいつの日かくるような感じがするときがあります。どうか先生の御指導を賜りたく心からお願ひ申し上げます。私も優美なる魂(微笑と永遠の平和を求めてまたさすらいの旅を続けます。乱筆をいつか直したいと思ひながら日暮れて道遠しの感です。では失礼します。

超能力が出てきた

愛知県松山市 藤原美由紀

久保田先生お元気ですか? 『生命の科学』や『テレパシー』他、本当にすばらしいですね。GAPというものが入会させていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。今

回はぜひおしえていただきたいことがあります。その前にまず私の日常でのテレパシー(といっても大したものではありません)やその他少し書きます。つい最近、こんなことを思いました。私が小さい頃(小学校二、三年頃だったと思います)が、いつ頃かはっきり覚えていません)よく母にこんなことを聞いていたのを思い出しました。「私は誰なのか、いったい誰がなっているのか」と。今、思い返してみると、生まれかわりのことを意味しているように思っています。又、幼稚園の頃、寝ると必ず形の無い色だけの愛な気持ちの悪い夢を見て、そのたびに泣きだしました。本当に奇妙というか、気持ちの悪いというか、言葉では表現しにくいのです。全体に灰色っぽい色(濃青や黒やいろいろな混じっていました)のような形の無い色だけの何か波のように揺れ動き、出たりはいつたりするのです。もしかすると宇宙空間に関係があるのかと思うのですが、はっきりわかりません。歩いていて、なんだか雲の上を歩いているようになったりしたこともあります。又、テレビを見ていたり、教壇の所に立っている先生を見ていて、すこ小さく見えたり(自分がその場所からずと遠くに離れて、その離れた所から見ているようになるのです)、又、なんとも言いがたい変な感じになるのです。去年、学校で授業を受けている時、急に体が上へ上へひっぱられるように吸いこまれているようになり、なんどか宙に浮いているような感じになったことが何回かあります。もしや、と、足元を見てみると、足は

ちゃんとしていてるのです。それにじっとしていても自分がその格好ではないように感じる時があります。たとえば、手のひらを下にして手をおいても、逆、つまり手のひらが上になっているように感じるのです。寝ていても、自分がそう寝ているのではなく、向きが反対(この場合、方向)になって寝ているようだと、とにかくこういうことはよくおきます。そして自分の体から出ていくからゆらゆら動きながら徐々に出ていくように感じます。その時なんだか恐ろしくなって、出るな、と強く念じるとピタッと止まるのです。とにかく目をつぶるとよくこういうことがおこるのです。これは意識が離れるのでしょうか。最近、感覚器官に変化があらわれました(味覚を除いた三つものだ)。ある時は目をつぶると本が見えてきて(開いた状態)、はつきりと内容が読めるのです。声に出して読めるので読んでいるうちに、これはなんと『生命の科学』の本でした。又、家からは何キロも離れている飛行場の離陸や着陸時の音が聞こえるのです。これは二回程ですが、離着陸とははつきり言えないかも知れませんが、その場面が浮かんできます。又、船の汽笛もはつきり聞こえます。これは四回程です。船の場合、電車で二十分程行った所にあるから、振動によって聞こえてくるのかも知れませんが(船の場合、夜か夜中の静まりかえった時です)。

最近、もっとも興味深いことが起こりつつあります。私はこれをじっくりと観察しようと思つていました。又、時間をあてたり、どこそかに誰かがいるのかもあてることができず(これは、まだ不完全です)。中学の頃、友達と、きまった場所まで数ある練習をしました。練習をすればする程適中するようになりまし。今はもう適中とまではいきませんが、とにかくこれから練習を重ねていくことが大切だと思います。長々と書きましたが、次に質問を書きます。

① 洗礼 について。洗礼というのは大切なのでしょうか。又、真の意味はなんのでしょうか。

私達の学校はキリスト教の学校です。この学校に入る前は別に興味(興味という言葉はびつたりしませんが)を持っていませんでしたが、やはり真理であるので少しずつ興味をもちはじめました。そしてアダムスキーの本を読んだからというのますます興味をもち、洗礼は受けていませが聖句の真の意味を確かもうとしています。この間、私の行っている教会の牧師さんとお話をしました。洗礼 について、納得しがたいものがあるので、なぜ洗礼というのをするのか聞いてみました。でもなおかつ納得はできませんでした。洗礼とは非常に大切とおっしゃっていました。教会へもまだ数回しか行っていませんが、やはり納得しがたいものがあります。牧師さんのお話も宇宙の法則に合わない事がたくさんあるようです。ぜひこの「洗礼」というものについて教えてください。

② 身体障害者について。生まれつき体の不自由な方や何かの事故で不自由になってしまった方々についてですが、宇宙的に、どの

ような事をすれば良いですか。宇宙的に直してあげたいと思うのですが……。一口に言っても簡単なことではありませんが、いかにすれば良いのか、今、彼らにどういうふうにするれば良いのか、先生の意見を聞かせてください。又、知能のおくれた方々に対していかによいのか、意見を聞かせてください。スペース・ブラザーズはこのことについてどういうふうに考えているのか、わかれば教えてください。

③ピラミッドの力について。
最近、このことを聞いたのですがこれはどういうことですか。ピラミッドの不思議な力とは？

そして、最後にお願いがあるので。聖書に関してのこと、今、人々に知られていない重要なことがあるように思います。聖句の真の意味もはたして本当に理解しているだろうかと思う時があります。聖書に関して重要なことが隠されていると思いますが、ニューズレターに少しずつのせていただければと思います。アダムスキーと聖書内容は大へん重要なことがありますが、これは様々な都合によりまだ公開できないと思いますが(GAPニューズレターで)、いつ頃、話していただけるでしょうか。勝手な事はかり書いてすみません、これは私個人の意見ですから、何かさしつかえがあれば読み流してください。

私は松山に住んでいます。高知にGAP支部があるので、行きたいとは思いますが、行けません。久保田先生、いつかおひまな時に松山に来てください。様々な事についてお話をしたいと願っている毎日です。

それから、松山にGAPの会員はいませんか？ GAPの話をしたいと思っても自由に話をする人がいません。もし松山にGAP会員がいるならおしえていただきたいのですが……。

本当に勝手なことばかり書いてすみません。とにかく、宇宙の勉強をしっかりやっていきたいと思えます。アダムスキー氏を尊敬し、真理を学んでいるので大へん幸せです。宇宙のために役立つように今後も一層努力して行きたいと思えます。GAPの皆様に幸せがありますように！

〈第二信〉

大へん貴重な御書簡を本当にありがとうございました。とてもうれしい次第です。さて今回は、こういう事を聞いていただきたくペンをとりました。

私が高二の時、生物を教えていた名前は、A先生という方で、大へんあたにかい方です。この先生は、科学(生物)、宗教(キリスト教)、心理学などをやっていらつしやいます。私が思いますに、この先生は本当にあたかたく、やさしく、深い理解力の持ち主ではないだろうかと感じました。それで、もしかしら宇宙哲学を知っておられるのではないかと思います。たとえ私がそのように思わなくても、この先生なら宇宙哲学を話し、理解してもらえらると思ひ、GAPのことは一切話さず、宇宙哲学という名を出さず、『生命の科学』で学んだ事をほんの少し話してみます。すると先生の考え方

などから、宇宙哲学を知らないことがわかりました。でも、少しずつ理解を示されました。私が今、この先生に対して考えているのは、私が高校を卒業するまでに宇宙哲学を話し、『生命の科学』を理解していただけだと思っています。決しておしつたり優越的な態度をとったりはしません。現代の科学を教えておられるのですが、この先生ならきつとすばらしく理解されると思っているのです。『生命の科学』等の本をこの先生にプレゼントしようと思っているのですが(もう一冊、購入しています)。そして学校の中などで、こういう方面に興味のある先生や生徒に話をしていただければと思っています。

久保田先生、この考え方について、どうでしょうか？ まだまだエゴに悩まされる私ですから、日常に應用し、心を訓練し、再び自分を見つめなければなりません。だから、私がこの先生に対して『生命の科学』を話すことはできませんが、とにかく心を発達させて内奥の意識に従う決心をさせていただきます。久保田先生、私のこの考え方について、是非、御意見をお聞かせください。

最近の私自身の変化を少し書きま

●この間、学校でスポーツテストをしました。その中で跳み台昇降をやったのは異なる脈のことで、今までとは異なり、第一回目の脈は以前のよりも少なくなっていました。そして第二回目のや三回目の脈も、一回目から3〜4ずつ減っていました。●そしてこれは、この前、お手紙を

出しました前からのことですが、水道管を流れる水の音が聞こえるのです。これは今までに五回程です。

●オーラは、もうずっと前から見えています。だからなんとも思わないのですが、最近はだんだん増してきてきました。

●三月の三年生の卒業式に出席した時のことです(私がまだ二年の時です)。なぜか私の体がぶるぶる震えて、歌もうまく歌えないくらいでした。私は、この空間(場内)と一体化しようと思ひ、ごく自然にそう思っていました。するとどうでしょう、ぱつぱつと、ピンッ、あるいは、ぱつぱつと、この時の表現法がみつかりませんのでこのように書きました)。そしてそれまで震えていたのがピタッと止まり、耳には雑音がいらなくなりました。そしておちつきました。あの時の感じは今でもはつきり覚えています。

いろいろと書きましたが、御多忙でいらつしやること存じますが、是非、さっきの考え方について先生の御意見をお聞かせいただければ幸いです。

本当に美しいものは、目に見えない

東京都 菊地啓子

私たちは興味ある対象を私有(所有)したいと思ひます。それは本家、恋人、食物、学問研究、時間さえも……。この時、所有者がある気持ちは持っているから、それらのすべては個人のものであっても、同時にすべての人のものであることが可能なのです。

ある気持ちは、私有物という感覚を越えてその物がいったい何であるか、また、なぜここに存在するかを当人に他の人々に説明します(所有者や他の人々が理解しようと努める必要があります)。所有者がその趣旨を理解すれば、適当な対策法を見出すでしょうし、他の人々も十分な理解を持って所有者を受け入れるでしょう。適切な使用は、所有者のみでなく、一般の人々にとっても役に立つ物も生産するでしょう。相手を尊敬すれば、長い年月、楽しい時間が持てるでしょう。その気持ちは宇宙の愛なのです。

もし所有者が宇宙の愛を持っていなかったら所有者の愛は偏愛、固執感情、排他的傾向を示し、他人にジェラシーを感じ、やがて破壊が発達します。それは『愛』の本来の目的(調和)をまったく否定するものです。愛は一つです。所有する対象物はすべて父性原理と母性原理から生まれた第三のもの(現象)の表現です。私たち人間でさえも現象の一方で生きています。同じ両親のもとで生きている個々に根本的な価値の差があるでしょうか？『存在』という価値に。そこには所有、非所有はありません。調和(愛)の目的のために、異なった形をなしているだけなのです。つまり、あらゆる物に。所有する愛なども本来ないので

このように理論らしきものを書き述べても、片思いで心を悩ましている私の気持ちを、どう考えたらいいのか？ この気持ちに対して、愛は一つで、自分のものは同時に他人の

ものと言われたら、心は、はっきりと誤解の反応を示すでしょう。ところが、心が理解できることには限界があるのです。

「見るこなしに信じられる者は幸いである」。聖書の一文ですが、そのとおりだと思います。狂信者になれというのではありません。目という器官にとらえられない言葉(音声、テレビシー)で理解する努力をし、聞くことができる人はすばらしい——という意味だと私は解釈します。

愛は調和を目的とします。私たちは宇宙をすべて理解することはできません。現在の地球人には、法則のすべてを即この社会で実行することには非常な困難を伴うでしょう。しかし、破壊に通じる嫉妬や怒りを克服することは可能です。どのような小さな事からでも、一歩を踏み出すべきです。それぞれの位置には、それぞれの好機とすばらしい友人がいます。

自己の良き個性の発見へ

京都府福知山市 仲間秀樹

久保田先生並びに事務局の皆様お元氣でしょうか。こうしたお手紙をお出したのは、福知山支部における活動と、その報告、近況などをお知らせしたくペンを取りました。

日本GAP福知山支部を発見いたしました。現状は、私と榊原氏、寺川氏の三名が実質的なメンバーとな

っており、京都市内より福知山市まで二時間余りかけて来てくださる知野見氏といった参加者であり、これでは知らせると言った面では、全くといった状態ですが、それ以前に私どもの自己の確立といったものが、とても人のお世話をできるほどではないのではなからうかと思えます。この例会も一応来月で一周年ということになり、総会というものを開くべきなのでしょうけれども、現在の所、開催することは事実上できないのではなからうかと考えております。小さなことでも方針を立てて話し合うといった程度のことでもその意味はあるものなのでしょうか。

宇宙の法則を知るといった意味では同じなのですが、GAP傘下のグループ「PCコスモ」で本年より宇宙問題についての実証的な研究とその啓蒙活動を行なうことになり、本質的にはアダムスキー哲学のもとに行動しています。ただ科学的な分野より導入しようというものです。

そういつたことを伝え、受け入れてくれる人々が現われるなら、私達の行なうべきスペース・プログラム(私は日常の生活から視野を宇宙へ向けさせることであるということも第一の目標としている)を進める一歩になるのではないかと確信しています。しかし、問題は多くあり、つき当るカベは厚いようです。まだ私どもは世の中の一小部分だけを考慮して、全てのあらゆる面の理解が足りないということ。具体的な活動、特に行動と言った分野ではほとんど皆無に近い状態です。その後にあるのは、その行動をするための知識を奉仕的に使うことをしない

のと、その量の少なさです。ここにも自分本位と怠惰な状態があります。それでも自己の内にある本来の良き個性の発見ということがあり、これは私にとって、この上ない心のやすらぎと美しさを感じました。それをこれからはくみ、本来の目的の為に昇華させて行くための努力の道へと進むことになるでしょう。

さて、努力の方法として、現在行なっているのは主に想念観察です。小さなメモ帳に思い浮かんだことを書き残すといった方法で、以前はかなり流せば良い悲観的な部分ばかりをこねまわしていたことが、それらを記録したために解りました。やはり実行は大切であると痛感すると共に、これからもそうすべきであると思えます。一月の例会でテレビシーの練習法についてお聞きしたのですけれど、それによって今まで生じていた他人との摩擦の原因がやっと解り、宇宙的に他人との一体感を感じることができつつあります。さらに努力をつみ重ねたいと思えます。それからもう一つお聞きいたしました子供の出生と両親の精神の発達度についてでしたけれども、将来の配偶者となるべく人と、私たちの愛すべき子供についても、以前よりは漠然として感じられたのですが、その法則、たぶんここには『親和の法則』が働いているのだと思えますが……それが根本的に大切ではないかと思うとともに、未来への足がかりになつて来ました。

ここで一つ私が特に最近感じていることを申し上げたいと存じます。これはUFO問題に関する情報面に ついてなのですが、あまりにもその

情報の集取と交換のみに追われて、それらを扱う時の心の持ち方に単なる興味本位や、自我の知識の増大そして、その表現法を奉仕的な段階に表現されていないように思われます。やはり思慮深き愛を持つて接するべきだと感じます。

このお手紙を書くのには、数日間の隔りがある文章を書き、まとまりのないものとなりました。浅学をお許し願いたく存じます。まったく一方的で申し訳なく思いますが良きアドバイス、生活法がございましたらご教授ねがいたく存じます。ありがとうございました。本年は能力開発を目標にしたいと思えます。皆様のご発展をお祈りいたします。

X X X

久保田先生、それから事務局のみなさまごぶさたしております。過日の総会、並びに十二月の月例会に出席できましたことに感謝いたしております。

確かに私個人の事ではありますが、自分自身の内部に宿る宇宙の意識に対する信頼は増して、次第にはつきりとして来たことを感じるこの頃です。しかしそれが何んであるかというところが、まだはつきりしない状態です。外界に振り回される、そしてセンスマインドに意識の方へ向かわせるはずの意志を妥協させてしまいやすく、心の平静を保つことは難かしいなと思えます。しかし努力なくしては進歩はないのですから、がんばらなくてはと思いつつ生活している次第です。総会が終了いたしましたので、テープを拝聴させていただいたのですが、ただ聞くのでは、その

小さな重要な部分も聞き流してしまっているので、ここにそのテープの内容を手記させていただいたことをご報告申し上げます。

その中で特に心に残った事柄でスペースブラザーズは毎日の生活の中で最もその基本となっているのは、自分の中に湧き起つて来る、フィーリングに従って生活するのだそうである。私も思いを新たにしたので、内部の声に耳をかたむけたら、それらの印象に気付くようになりたいです。

お願い

昭和五十一年春頃、埼玉県春日部の女性の方で東京月例会で「第三の目」を私から借りた方、至急お返し下さい。千九五〇—一二 新潟県白根市中央通り6 平山 徹

「テレビシー」録音テープを頒布

GAP東京月例会における久保田先生の「テレビシー」講義一時間分の録音テープを頒布いたします。希望者は頒価一〇〇〇円、送料一四〇円を添えて左記へお申し込み下さい。

〒二七四 千葉県船橋市前原西 8-5-18 浜村達郎

「生命の科学」筆記録を頒布

GAP東京月例会における久保田先生の「生命の科学」講義一時間分の録音テープを完全に筆記した筆記録を頒布いたします。希望者は各課共頒価五〇〇円、送料一四〇円を添えて左記へお申し込み下さい。(第七、八、九、十課あり)

〒一三三 東京都足立区興野1-17-19 朝日新聞興野専売所内 安藤雄雄

東京月例会の会場変更

—— 6月より ——

- 日本GAP東京月例会は、従来、上野公園の東京文化会館で開催してきましたが、同会館は火災防止用スプリンクラー取り付けのため6月より11月までの6カ月間、閉鎖されます。よって6月より10月まで東京月例会は下記のとおり、皇居北の丸公園の『科学技術館』に会場を変更しますから、お間違いなきようご注意下さい。（11月は新橋のヤクルトホールで総会を開催するので同月の月例会は中止します）

科学技術館全景



財団法人 科学技術館

〒102 東京都千代田区北の丸公園 2-1
電話 (212) 8471 (大代表)

- 徒歩 東京駅丸の内側より約20分。毎日新聞社前の皇居お濠の竹橋を渡って、右手すぐ。
- 電車 東京駅丸の内側駅前三和銀行そばの地下鉄「東西線・大手町駅」より飯田橋方面行きに乘車、すぐ隣の「竹橋駅」で下車して徒歩3分。東京駅八重洲側北口構内からも東西線に乘れる。
- タクシー 東京駅丸の内側タクシー乗り場より約5分。料金 ¥450

今年11月の総会について

—— 計画中 ——

- 既報のとおり、昨年日本GAP総会の大成切に引き続き、今年も11月19日に東京・新橋のヤクルトホールで盛大な総会を開催すべく立案中です。今年はアメリカGAP本部より理事のステイブ・ホワイトニング氏を招待して講演をお願いするよう交渉中です。ホワイトニング氏は本年26歳で独身、少年時代にアダムスキー氏に傾倒し、早くからテレパシーの超能力を有し、スペース・ブラザーズとコンタクトの経験もあるという、すばらしい青年で、現在は米GAP本部でフレッド・ステックリング夫妻を助けて大活躍を続けています。来日が実現すれば、昨秋におとらぬ貴重な情報とティーチングを与えてくれるものと思います。ご期待下さい。詳細は10月発行の次号に発表します。
- 昨年の募金運動による残額が¥886,056ありますので、今年は正式な募金を行ないませんが、場合によっては不足するとも考えられますので、1口¥1,000以上でご協力下されば幸いに存じます。ご送金の際は「ホワイトニング氏招待募金協力」と明記して、必ず振替でお願いいたします。
- ホワイトニング氏に関しては、本誌58号掲載の米国GAP本部訪問記や本号6頁の同氏の記事等をご参照下さい。

日本GAP

日本GAP各地月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第2土曜日 午後2:00→6:00	どこかで地下鉄「東西線」に乗り「竹橋(たけはし)」駅で降りて地上へ出るとそこは毎日新聞社前。すぐ前の長さ40mの竹橋を渡って国立近代美術館と国立古文書館の前を通りながら約200m行き、「みたけはし」歩道橋の手前で右折して更に200m行くと右側が科学技術館。正面入口から奥へ行かずにすぐ右手の「南側エレベーター」で6階へ昇り、降りた所が会場の第4会議室。館内に食堂あり。この会場は6月より10月まで使用。	¥ 300	テキストとして「テレバシー(文久書林刊)」を持参。2:00→3:00「テレバシー」講義, 3時→4:30主宰者挨拶・報告, テレバシー練習, 休憩。4:30→6:00自己紹介, 研究発表, 質疑応答。 * 科学技術館の電話は (212) 8471 (大代表)
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 6月のみ17, 18日の2日間	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」電話(388)7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先=片 京0720-31-5646	17日 300	午後1:00→5:00 久保田主宰者出席。アメリカ・メキシコのスライド公開, 講演, 座談会開催。
			18日 200	通常の月例会開催。
高知支部	毎月第1日曜日 午前10:00→	高知市棧橋通り2-1-55 「青年センター」電話(31)4931 連絡先=橋詰利光0888-42-3884	100	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟駅前「青年の家」 電話 0252-44-6766	200	テキストとして「テレバシー」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の「テレバシー」講義録音テープを公開。
熊本支部	毎月第3日曜日 午後2:00→5:00	熊本市桜町「熊本市市民会館」会議室。電話(55)5235。国鉄「熊本駅」前から市電「健軍」行き乗車, 「お城前」下車, 同交差点左折, 徒歩2分。 連絡先=津野田俊行 0963-52-3381	100	テキストとして「テレバシー」(文久書林刊)を持参。2:00→3:00 久保田主宰の東京例会における「テレバシー」講義録音テープ公開。3:00→5:00自己紹介, 座談, 質疑応答。
福知山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	福知山市「福知山市民会館」2F会議室。駅前から右方向の道路を直進し, 2つ目の信号機の所。	50	テキストとして「生の科学」「テレバシー」「宇宙哲学」, 久保田主宰者の講演録音テープ公開, テレバシー練習, 自己紹介, 研究発表, 質疑応答。
岐阜支部	毎月第3日曜日 午前9:00→12:00	岐阜市神田町「商工会議所」電話(64)2131。国鉄または名鉄「岐阜駅」下車, 徒歩10分, バスか市電で「柳ヶ瀬」下車, 近鉄百貨店を北へすぐ近く。 連絡先=松尾和也 0582-51-8567	300	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」「宇宙哲学」を持参。久保田主宰者の講演録音テープ公開。支部長松尾氏による「生命の科学」解説。質疑応答, 座談。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20	仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 0222-29-4305 田中義則 0222-46-1350	200	東京本部月例会における久保田主宰者の講義録音テープ公開, テレバシー練習, 座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:30→5:00	上山市「労働福祉会館」2F会議室。電話02367(2)6082。月岡公園入口より左側へすぐ。 連絡先=漆山晃治 02367-4-3414 山口 緑 02367-9-2555	200	テキストとして「テレバシー(文久書林刊)」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の講演録音テープ公開, テレバシー練習, 研究発表, 座談会。
札幌支部	毎月第3日曜日に月例会を開催。場所と時間は〒060 札幌市中央区大通東5丁目13 伊藤重信氏へ連絡のこと。			
静岡支部	設立準備中。詳細は 〒422 静岡市西島304の9, 野口敏治氏宛連絡のこと。0542-86-7729			

アダムスキー哲学三大名著 絶賛発売中!

スペースブラザーズから伝えられた宇宙的思维法と宇宙的な生き方とを三部に分けて詳述。GAP 会員必携の書。注文は各出版元へ直接にどうぞ。

G・アダムスキー 久保田八郎訳

宇宙哲学

¥ 750 丁160

東京都新宿区納戸町33たま出版 振替東京94804

宇宙問題探求者必読の書

宇宙人から伝えられた人間の生き方を詳述
テレパシー ■ 生命の科学

ジョージ・アダムスキー/久保田八郎訳

¥ 450 丁160 ¥ 550 丁160

絶賛! アダムスキーの弟子でありコンタクティでもあったフレッド・ステックリングのすばらしい体験記と哲学! 特に幼児教育について重要な示唆を与える。宇宙問題探求者必読の書!

★★なぜ空飛ぶ円盤は来るのか★★

フレッド・ステックリング/久保田八郎訳

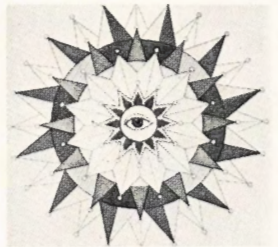
好評発売中! ¥ 650 丁160

文久書林

東京都文京区白山1-29-12
振替・東京2521 Tel. (813) 2495



①



②

①オーソン肖像写真

②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、スペース・ブラザーズとの一体化を図る上で重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

① ¥ 500 丁100 ② ¥ 200 丁50 一括注文の場合 丁100

編集後記

★一九七五年に編者が米GAP本部を最初に訪問した際、ステックリング氏からアダムスキーのすばらしい遺稿が編者に与えられた。以来掲載しようと思いついたが果たせなかった。一篇の論文「エゴを支配する道」をやつと本号に公開することができて、ひと安心しています。けれど人間の生き方を示す最高の奥義として燦然たる光芒を放つものです。

★米GAP本部はステックリング氏とハワイテイニング氏を正式に理事に任命して態勢の強化を図りました。これには重要な理由がありますが、いずれ時期が来れば詳細な事実が発表されるものと思います。

★先号で募集した皆様からの投稿等は意外に少なく、特に「ビスタからの友情」宛質問はわずかに二通しかなく、したがって、まだステックリング氏に質問を取り次いでいません。ご遠慮なく質問・意見・感想・研究論文・実践体験記等の原稿をお寄せ下さい。正規の原稿用紙でなくても結構です。ただし必ずタテ書きをお願いします。

★六月より東京月例会は上野の山を降りて、皇居・北の丸公園の科学技術館へ会場を移し、本年十二月にはふたたび上野の東京文化会館へ移ります。詳細は39頁と40頁をごらん下さい。新会場は毎日新聞社とリスターズ・ダイジェスト社が同居しているパレスサイドビル(建物の左端に大きな円筒型ビルが付属している)を目当てに行けばすぐわかります。皇居(戦前は宮城といった)のお濠端とあって、ここも環境は抜群、都内のドまん中と思えぬほど静かな落ち着いた場所です。堀君が足を棒にして東京中の数百の会館類をシラミつぶしに探した結果、やつとみつけた会場です。同君に感謝します。

★その堀君は一昨年春より本会の事務・発送関係を担当していましたが、本年五月よりふたたび編者がその仕事を一人で行なうことになり、結局、本誌編集・事務発送等のすべては編者・久保田が個人で遂行することになりました。これは日本GAPなるものが一般的に

幹部団の合議制を基盤とした団体活動ではなく、アダムスキーのアドバイスにもとづいた久保田の単独奉仕を原則とした個人活動であることの意味します。したがって運営上の責任はすべて久保田個人にあります。また、堀君は今後東京月例会と今秋の総会の世話役を分担します。二年間ご苦労さまでした。

★今年十一月にもまた盛大な総会をヤクルトホールで開催の予定ですが、海外からの招待者は目下交渉中で、確定の段階に至っていないものの、大体に米GAP本部のステイブ・ハワイテイニング氏に落ち着くと思います。ご期待下さい。募金の方もよろしく願っています。

★33頁に掲載の「エジプト宇宙考古学遺跡の旅」は好評裡に申込者が殺到し、今年八月十三日に出発が確定しましたが、まだ人員に余裕がありますから、ふるってご参加下さい。費用は四十九万八千円で、毎月約二万二千元の二十四カ月払いの方法もあります。編者はいかなる旅行でも危険やトラブルが一切発生しないという特殊な運命を持つ人間ですから、安心して一緒にお出かけ下さい。一四〇円切手同封の上、日本GAP宛旅行説明書をお申し込み下さい。お送りします。なお、すでに正式な参加申し込みをされた方は、編者宛にその旨を記した紙片と顔写真を一枚お送り下さい。いずれ詳細な旅行心得をお送りします。(久)

GAP ニューズレター 64号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色町365-1818
電話 (651) 0958
振替東京4-359912 (久保田八郎名義)

May 30 1978
頒価 300円・送料 200円

